

令和6年度 文部科学省委託

学校安全総合支援事業報告書

令和7年3月
新潟県教育委員会

令和6年度「学校安全総合支援事業(学校安全推進体制の構築)」

1 事業名

令和6年度「学校安全総合支援事業(学校安全推進体制の構築)」

2 事業の趣旨

学校安全の推進に関する国の施策の基本的方向と具体的な方策を示すため、「第3次学校安全の推進に関する計画」(令和4年3月25日閣議決定)においては、学校安全計画・危機管理マニュアルを見直すサイクルを構築し、学校安全の実効性を高めること。地域の多様な主体と密接に連携・協働し、子供の視点も踏まえた安全対策を推進すること。全ての学校における実践的・実効的な安全教育を推進すること。地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育・訓練を実施すること。事故情報や学校の取組状況などデータを活用し学校安全を「見える化」すること。そして、学校安全に関する意識の向上を図ることが、施策の基本的な方向性として示された。

これらの施策を推進していくためには、これまでの事業等で蓄積した様々な先進事例も踏まえながら、学校種・地域の特性に応じた継続的で発展的な実効性のある学校安全に係る取組を、地域が一体となって進めることができる体制を構築することが必要である。

以上を踏まえ、市区町村教育委員会を中心として、モデル地域内の学校で学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、国私立を含む学校間の連携を促進し、モデル地域全体での学校安全推進体制を構築するとともに、都道府県等全域へその仕組みを普及することを支援し、受託都道府県等全域での学校安全の取組の推進を目指すものである。また、報告書等を活用し、次期「学校安全の推進に関する計画」策定の参考とすべき情報を収集するとともに、学校安全の推進体制の構築について全国的な普及を図るものである。

3 委託事業の内容

学校種・地域の特性に応じた地域全体での学校安全推進体制の構築を図るため、都道府県又は指定都市(以下「都道府県等」という。)の教育委員会が当該都道府県等の中でモデルとなる地域(以下「モデル地域」という。)を設定し、当該地域を所管する市区町村教育委員会が中心となってモデル地域全体での学校安全推進体制を構築する。モデル地域における実践を通じて得られた体制構築の成果等については当該都道府県等内の他地域にも普及し、都道府県等全体としての持続的な体制整備の構築へと広げ、都道府県等内の全域において学校安全推進体制を構築する。

目次

1	事業の成果等について	1
2	モデル地域の防犯教育について	6
	【防犯教育のための単元 UNIT シート】		
3	事前・事後の防犯調査	22
	【児童生徒・保護者】		
4	指導者からの講評	36
	【講評】		
	◇立正大学文学部 社会学博士		
	教授 小宮 信夫 氏		
	◇上越教育大学大学院学校教育研究科学校教育学系		
	准教授 蜂須賀 洋一 氏		
	【第3回実践委員会(R7.2.4) 記録】		
	◇モデル地域3校による、本事業の成果報告会の記録		
	◇標記委員会での指導者からのご指導		

事業の成果等について

新潟県

教育委員会名：新潟県教育委員会

住所：新潟県新潟市中央区新光町4番地1

電話：025-280-5622

I 都道府県・指定都市の現状と取組

1 安全上の課題

平成30年5月、新潟市で下校中の女子児童が殺害されるという痛ましい事件が発生。二度とこのような事件が発生しないよう、本県の防犯教育の一層の強化が求められた。

しかし、先生等の大人が、児童生徒の安全をいつも守り続けることには限界がある。

そこで、児童生徒自身が的確な思考や判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにするとともに、危機発生時の対応能力及び通学路における見守り体制の強化を図る必要がある。

2 事業目標

- (1) 地域安全マップづくりを中核とした取組実践をとおして、児童生徒の「景色解読力の向上」「危機予測能力の向上」を図っていくことで、自他の安全確保についての的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。
- (2) 地域安全マップづくりフィールドワークによる住民へのインタビュー活動や協働によるマップづくり等を通して、児童同士や地域住民、学校と地域とのかかわりの強化を図るとともに、オンライン会議等を活用し、通学路における地域の見守り体制の強化及び県全体の防犯教育を推進する。

3 モデル地域選定の理由

吉田中学校区のある燕市では、毎年一定数の不審者事案が発生。令和5年度の報告件数は、児童生徒への直接の声掛けやつきまとい等、30件であった。燕市管内で活動している防犯活動団体数は、令和4年度に100%に達し、その活動範囲は、当該小学校区を十分にカバーしていると言える。

しかし、児童生徒数の減少により、人通りが少ない場所や一人区間の通学路を登下校で利用している児童生徒もいる等、子ども達の安全を確保するため

の、学校と地域・保護者との組織的な取組が必要である。

そこで、地域安全マップづくりを中核とした本事業を展開し、児童生徒自身が的確な思考や判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようになること、学校と防犯活動団体、保護者による通学路における見守り体制の連携強化を図ることを目指す。

4 取組の概要

(1) 学校安全体制の構築に係る取組及び成果の普及方法について

- ア 各市町村教育委員会へ事業報告書を送付し、防犯教育の好事例として紹介する。
- イ 市町村教育委員会による学校安全に関する研修等での資料活用を依頼する。
- ウ 令和7年度下越地区学校安全教育指導者研修会で事業の成果を共有し、成果の普及に繋げる。

(2) 学校安全の中核となる教員の育成や資質能力の向上に係る取組について

- ア 全県学校安全・保健体育講座
日時：令和6年6月6日～8月31日
会場：オンデマンド研修
内容：管理職対象の講座の中で、新潟県の防犯教育に関する講座を実施。

- イ 防犯教育研修会
日時：令和6年6月21日
会場：あいぽーと佐渡
内容：学校安全中核教員対象の学校安全教育指導者研修会の中で、地域安全マップづくりとネット被害防止のための防犯教育に関する研修会を実施。

(3) 学校安全の取組を評価・検証するための方法について

事業の実施前及び実施後の取組状況について、県内全公立学校(新潟市除く)に対して調査を行う。実施前調査については、令和5年度学校安全に係る調査結果(新潟県)を用いることとする。

防犯教育が位置付けられた学校安全計画の策定ができているか、及び実効的な計画となる見直しができているかについて、次年度の研修に繋げる必要がある。

(4) その他の主な取組について

立正大学文学部社会学科教授、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授から指導・助言を受けて実践した。

5 成果と課題

【成果1】

どの学校でも使える、適切な意思決定や行動選択ができる児童生徒を育てることのできる単元UNITシートを作成することができた。

【成果2】

単元UNITシートを用いて「犯罪機会論」を基にした景色の見方について学び、適切な意思決定や行動選択に繋げることができる児童生徒が増えた。

The image shows a unit sheet for '防犯教育(犯罪機会論)'. It is divided into four units, each with a title, objective, and activity. Unit 1 is '知る(3時間)', Unit 2 is '知る(6時間)', Unit 3 is '気づく(5時間)', and Unit 4 is '伝える(3時間)'. Each unit includes a 'タイトル' (Title) and 'ねらい(学習目標)' (Objective). The sheet also includes a '地区の姿(成果と課題)' (Area's Appearance (Achievements and Issues)) section at the bottom.

【防犯教育のための単元UNITシート】

【課題】

地域や関係機関等と関わった「地域安全マップづくり講習会」や「防犯教育講演会」、モデル校での「授業参観」の機会を学校と協働して企画し、その後の地域防犯の推進に向けた連携・協働へ繋げていくことが、次年度への課題である。

II モデル地域の現状と取組

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

- モデル地域名：燕市立吉田中学校区
- 学校数：小学校 2校 中学校 1校

(2) モデル地域の安全上の課題

児童生徒数の減少により、人通りが少ない場所や一人区間の通学路を登下校で利用している児童生徒も多い等、子ども達の安全を確保するための、学校と地域との組織的な取組が必要である。

そのため、地域安全マップづくりを中核とした本事業で景色解読力を身に付け、児童生徒自身の危機回避能力の向上、危機発生時の対応能力及び通学路における防犯活動団体との連携強化を図る必要がある。

2 モデル地域の事業目標

児童生徒が安全に安全して学ぶことができる環境を創るためには、児童生徒の危機回避能力の向上、危機発生時の対応能力、通学路における地域の見守り体制の強化を図る必要がある。

そこで、地域安全マップづくりを中核とした取組実践をととして、児童生徒の「景色解読力の向上」「危機予測能力の向上」を図っていくことで、自他の安全確保についての的確な思考、判断に基づく適切な思決定や行動選択ができるようにする。

また、地域安全マップづくりフィールドワークによる住民へのインタビュー活動や地域の防犯講習会等を通して、児童同士や地域住民、学校と地域とのかかわりの強化を図ることにより、通学路における地域の見守り体制の強化を図る。



3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

(ア) 第1回推進委員会

日時：令和6年8月7日(水)

会場：燕市分水公民館(ハイブリッド開催)

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏
上越教育大学准教授 蜂須賀 洋一 氏

内容：県小中学校
PTA 連合会、
県警、市警、
行政職員、モ
デル地域校
職員による
推進委員会。



県の防犯実態や本事業の方向性、実施内容、役割分担について共有。

(イ)「景色の見方を学ぶ授業」

日時：令和6年9月5日（木）

会場：燕市立粟生津小学校（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：拠点校の3

年生が、地域
安全マップ
作成に向け、
危険な場所
の景色の見
方について、



指導者からオンラインで学ぶ。

(ウ)防犯教育公開授業

日時：令和6年11月12日（火）

会場：燕市立粟生津小学校（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：燕市立小中学校学校安全担当中核教員、
推進委員を対象に、防犯教育公開授業を
実施。景色に

着目した危
険な場所の
判断の仕方
について理
解を深めた。



(エ)第2回推進委員会

日時：令和6年11月12日（火）

会場：燕市立粟生津小学校（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：燕市内における防犯教育の課題や今後に
向けた取組について推進委員で協議した。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための

方法について

モデル地域校の児童生徒（小3、中2）とその保護者を対象に、事業前と事業後に防犯調査を実施。事業前と事業後の児童生徒、並びに保護者の学びの深まりや危機回避能力・危険な場所の景色の見方（景色解読力）の向上について検証する。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

ア 地域安全マップづくり講習会

日時：令和6年8月7日（水）

会場：燕市立分水公民館（ハイブリッド開催）

指導者：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：燕市立小中

学校の学校
安全担当中
核教員、市
内の防犯団
体、その他、
県内防犯関



係者（希望者）を対象に開催。児童生徒への指導者として、危険な場所の景色の見方について学ぶ。

イ 防犯教育講演会

日時：令和6年12月6日（金）

会場：燕市立粟生津小学校（ハイブリッド開催）

講師：立正大学教授 小宮 信夫 氏

内容：市内の防犯団体、モデル地域校保護者を対象に開催。「子どもを犯罪から守るために」と題し、地域の危険な場所（犯罪が起りやすい場所）はどこか、「子どもを犯罪から守るためにはどうすればいいのか」など、犯罪が起りやすい場所（ホットスポット）のパトロールの仕方や、通学路の安全点検を効果的に実施するためのヒントについて学ぶ。



(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 第1回実践委員会

日時：令和6年7月29日（月）
 会場：オンライン
 講師：立正大学教授 小宮 信夫 氏
 上越教育大学准教授 蜂須賀 洋一 氏
 内容：県の防犯教育の方向性や今後の予定、
 分担等について協議。

イ 第2回実践委員会

日時：令和6年9月5日（木）
 会場：燕市立栗生津小学校（ハイブリッド開催）
 講師：立正大学教授 小宮 信夫 氏
 上越教育大学准教授 蜂須賀 洋一 氏
 内容：「景色の見
 方を学ぶ授
 業」での児
 童の反応や
 様子及び、
 次回の防犯
 教育公開授業の方向性について検討。



ウ 第3回実践委員会

日時：令和7年2月4日（火）
 会場：オンライン
 講師：立正大学教授 小宮 信夫 氏
 上越教育大学准教授 蜂須賀 洋一 氏
 内容：事業の振り返り、及びモデル地域各校
 での事業の様子や成果について協議。

4 取組の成果と課題

【成果】

防犯教育のための単元 UNIT シートで UNIT ごとのねらいに沿って学習を進めることで、児童生徒に次のような成果が見られた。

ア 犯罪が起きるのは、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目（犯罪機会論）する考え方が身に付いた。

イ 防犯調査で、「人（＝不審者）で危険を判断する」という考えの児童生徒が減った。

調査項目 P35. ①
「怪しい人」は見ただけで分かる。 「どう考えてもそう思わない」「なんとなくそう思わない」と回答した児童生徒
事前調査：32%
事後調査：78%
+46 ポイント

ウ 防犯調査で、危険な場所の見方を知ることができた児童生徒が増えた。

調査項目 P36. ⑦
「危険な場所」とは「入りやすく見えにくい場所」である。 「どう考えてもそう思う」「なんとなくそう思う」と回答した児童生徒
事前調査：59%
事後調査：94%
+35 ポイント

【課題】

ア 少数の児童で、広範囲の地域に渡るマップを作成するに当たり、内容的にも時間的にも、安全マップを作成していく（まとめる）難しさを、児童も教師も感じた。（P50. L1～4）

イ 「入りやすく、見えにくい場所は危険だ」と、広い意味での認識を3年生の児童はもつことはできたが、発表する側も聞く側も、防犯上、何が危険なのかをもっと深められるとよかった。（P50. L20～25）



ウ 保護者への防犯調査において、「安全と危険の区別は場所（景色）を見れば分かる」という項目がマイナス14ポイントという結果となった。



学習参観では、児童が最も保護者に伝えなかった内容であったが、調査結果はマイナスとなった。

しかし、これは逆に評価できる側面もある。この結果は、児童が保護者に伝えなかった「入りやすく見えにくい場所が危険である」という景色の見方が保護者にしっかりと伝わったことを示しているとも考えられるからである。

（P52. L7～12, L18～22）

調査項目 P41. ⑧
安全と危険は、景色を見れば区別できる。 「どう考えてもそう思う」「なんとなくそう思う」と回答した保護者
事前調査：21%
事後調査：7%
-14 ポイント

モデル地域の防犯教育について

【防犯教育のための单元 UNIT シート】

【防犯教育のための UNIT シート】について

防犯教育の参考にしてください

今年度のモデル地域校である、燕市立粟生津小学校・吉田南小学校・吉田中学校の3校の学校安全担当中核教員が、どの学校でも利用できる「防犯教育のための单元 UNIT シート」を作成しました。

粟生津小学校・吉田南小学校の3年生、そして吉田中学校の2年生が、総合的な学習の時間や社会、保健体育の授業で実践しました。

是非、貴校の防犯教育の参考にしてください。

小学校4ステップ、中学校3ステップの防犯学習

この UNIT シートは、「知る」→「調べる」→「気付く」→「伝える」の4ステップ（中学校は3ステップ「知る」→「共有する」→「深める」）で单元を構成し、設定したねらいに沿って学習を進めていくことができます。



防犯教育の自校化に繋がってください

UNIT シートのデータは、今後、新潟県教育庁保健体育課のホームページから利用できるようにします。準備ができ次第、お知らせします。シートを有効に活用いただき、貴校の「防犯教育のための UNIT シート」を作成して防犯教育を学校安全計画に位置付けることで、防犯教育の自校化に繋がってください。

防犯教育のための単元 UNIT シートの紹介

① UNIT ごとのねらいを達成して単元のねらいを目指す

単元をUNITで構成することで ○単元の概要が一目でわかる
○UNITごとに何をすればいいかが明確



② UNIT は 4 ステップ 知る→調べる→気付く→伝える

単元をUNITで構成することで ○単元の概要が一目でわかる
○UNITごとに何をすればいいかが明確



シートには関連する教科もあり、防犯教育を教科等横断的に行っていることも分かります。

③指導計画とセットで利用することで、より単元をイメージ

単元をUNITで構成することで

- 単元の概要が一目でわかる
- UNITごとに何をすればいいかが明確
- 指導計画とSETになっている

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【燕市立】

ねらい 誰もが「入りやすい」、誰からも「見えにくい」という、危険な場所を見極める景色の見方を学び、学びをまとめる、自分の生活に活かすことができる。

UNIT 1 知る (2時間)

タイトル 犯罪が起こりやすい「危険な場所」はどんな場所か知ろう

ねらい (学習目標)

1. 犯罪、特に誘拐が起こりやすい「危険な場所」の景色の見方を知る。
2. 学習計画を立てる。

3年 地域安全マップづくり 指導計画 (総合8時間程度)

・児童にアンケート実施 事前は10月2日(水)か3日(木)朝

事後は11月

次	時	学習内容	留意点	評価
1		犯罪が起こりやすい「危険な場所」はどんな場所か知ろう ・犯罪、特に誘拐が起こりやすい「危険な場所」の「景色の見方」について、講話を聞く。	① YouTube動画「あぶないところってどんなところ？」(31分)を活用する。	
		10月3日(木)5限 学年	② これまでに危険だと児童が認識している「交通安全」「防災」の観点での場所とは異なる。児童の考えを認めつつ「防犯」意識を向けていく。	
			③ 「入りやすく」「見えにくい」という2つのキーワードの意味を理解する。	
2		・がんこちゃん「ここはあぶないよ！あそこ		・資料や写真をネットから使用する。

UNITシート

単元の指導計画

「犯罪が起こりやすい危険な場所ってどこ？①」となりますので、「あ、Youtube 見るんだな。」
「どんな場所か知るには、景色の見方が関わってくるんだな。この学習で子どもたちに2つのキーワード（入りやすく・見えにくい場所）について理解させればいいんだな。②」「10月の授業参観で発表できるようにしないと。③」と単元の流れがイメージできます。

単元をUNITで構成することで

- 単元の概要が一目でわかる
- UNITごとに何をすればいいかが明確
- 指導計画とSETになっている

令和6年度 燕市立吉田中

UNIT 1 (知る) 不審者対策避難訓練 → UNIT 避難訓

ねらい 犯罪機会論や景色解読力について知ることを通して、危険を予測し、判断することができるようにし、犯罪被害を未然に防ぐ方法を身につける。

ねらい 避難訓練 (Googleマップなど) を活用し、危険な場所を特定する。

2 実践 UNIT 1 (知る) 不審者対策避難訓練 全学年対象

○不審者対策のための避難訓練を行う。

○避難後の全体指導で、犯罪機会論や景色解読力について知る。

※防犯アニメ「あぶないところってどんなところ？」視聴

・不審者は、見た目では判断できないことや、連れ去りなどの犯罪は、子ども自らの意思で行った事例が圧倒的に多いことを知る。

・犯罪は、動機を抱えた人が、犯罪の機会(犯罪が成功しそうな場所・状況・環境)に出会って初めて犯罪が起こるといふ「犯罪機会論」について知る。

・犯罪が起きやすい場所は、誰もが(犯人も)「入りやすく」、誰からも(犯行が)「見えにくい」場所であることを知り、心理的・物理的に「入りやすく見えにくい」場所はどこかを理解を深める。

UNITシート

単元の指導計画

防犯教育のための単元UNITシート

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【燕市立粟生津小学校】

ねらい

『犯罪機会論』による防犯の方法として提唱されている「入りやすく見えにくい場所」という景色の見方を学ぶことを通して、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目して、犯罪から身を守るための自分なりの方法を考えることができる。

UNIT 1
知る（3時間）

タイトル 「入りやすく見えにくい」場所って、なに？

ねらい（学習目標）

1. 「防犯」に係る「危険な場所」とはどこか、『犯罪機会論』の提唱者である小宮教授から直接話を聞いたり、質問したりする活動を通して、自分の住む地域にも「危険な場所」があるかもしれないと気付くことができる。



UNIT 2
調べる（5時間）

タイトル 地いきに「入りやすく見えにくい」場所は、あるかな？

ねらい（学習目標）

1. 保護者と共に地域を散策したり、GoogleMapを活用して探したりする活動を通して、自分の住む地域に「危険な場所」がないか探すことができる。
2. みんなが探した「危険な場所」を吟味する活動を通して、自分の住む地域に「危険な場所」がいくつもあることに気付くことができる。



UNIT 3
気付く（5時間）

タイトル 「人」ではなく「場所」が大切！

ねらい（学習目標）

1. 「危険な場所」について、『安全マップ』にまとめる活動を通して、犯罪機会を「人」で判断するよりも「危険な場所」で判断する方が分かりやすいと気付くことができる。
2. 保護者に発表する『安全マップ』の見せ方や発表の仕方を見直す活動を通して、「自分を守る」ためには、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが改めて大切であることに気付くことができる。



UNIT 4
伝える（3時間）

タイトル みんなも「場所」に気づいてほしい！

ねらい（学習目標）

1. 学習参観時、保護者に「危険な場所」とは何か、『安全マップ』を活用して自分の住む地域の「危険な場所」は、どこか発表する活動を通して、機会（＝場所）に着目することの大切さを伝えることができる。
2. 地域の方々や全校児童に、機会（＝場所）に着目することの大切さを伝える方法を考える活動を通して、これからも自分の命を守るための「防犯」に対する意欲を高めることができる。

児童の姿（成果と課題）

UNIT1からUNIT2にかけ、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することを押さえながら活動を行ったことで、テレビや新聞等で犯罪に関わる記事を見つけた際には、「入りやすい場所だったのかな。」「見えにくいところなのかな。」という言葉が児童から聞かれた。また、児童アンケートの結果からも「見た目だけで怪しい人が判断できる」や「暗い道やガードレールがある道が危険」という質問に対し、「そう思わない」と回答する割合が事前より事後が多かった。これらのことから、児童は、本单元を通して、犯罪機会論の知識を獲得できたと考えられる。一方で、その知識を保護者や地域の方々々に伝えることが難しい様子であった。今後は、発達段階に応じてUNIT4を見直していく必要がある。

防犯教育のための単元 UNIT シート

UNIT 1 ～ 4 の 4 ステップで実施できる防犯教育【燕市立吉田南小学校】

ねらい

誰もが「入りやすい」、誰からも「見えにくい」という、危険な場所を見極める景色の見方を学び、調べたことを地域安全マップにまとめ、自分の生活に活かすことができる。

UNIT 1
知る (2時間)

タイトル

犯罪が起こりやすい「危険な場所」はどんな場所か知ろう

ねらい (学習目標)

1. 犯罪、特に誘拐が起こりやすい「危険な場所」の景色の見方を知る。
2. 学習計画を立てる。



UNIT 2
調べる (1時間・課外)

タイトル

通学路や自分の地域で、「危険な場所」はあるか調べよう

ねらい (学習目標)

1. 実際に、校区内のいくつかの地域をフィールドワークで巡り、景色の見方を確かめる。
2. 通学路や自分の住んでいる地域の危険な場所を調べ、撮影する。(課外)



UNIT 3
気付く (3時間)

タイトル

地域安全マップを作ろう

ねらい (学習目標)

1. 撮影した写真を互いに見合い、景色に着目しながら危険かどうか検討する。(学習参観)
2. 仲間と交流したことをもとに、グループで各地域の、地域安全マップを作成する。

UNIT 4
伝える (2時間)

タイトル

地域・全校のみなさんに伝えよう

ねらい (学習目標)

1. 作成した地域安全マップの内容を伝える方法を話し合い、準備をする。
2. 保護者、地域の方を招待し、発表会をする。校内に掲示し、全校に発信する。



児童生徒の姿 (成果)

「危険な場所」として児童が撮影した写真はキーワードを踏まえたものが多かった。児童は、地域の「町づくり協議会」及び保護者の方々と一緒に「危険な場所」を調べて伝え合い、マップにまとめていく学習に、意欲的に取り組んだ。発表会の様子からは「不審者は見かけでは分からないことに気づき、「入りやすく見えにくい」という分かりやすいキーワードをもとに、景色を見たことが伝わってきた。身近な大人と一緒に地域の「危険な場所」を考えたことが、児童の意欲につながり、理解を深めた。

3年 総合的な学習の時間「自分を守る防犯」(防犯教育) 指導計画 (全16時間)

燕市立栗生津小学校

UNIT	時	○活動内容	◆留意点 ◇評価
0 【きっかけ】	【防災教育】「自分を守る防災」(全11時間)		
	<p>まずは、身近に起きる可能性のある災害(地震、津波、風水害)が実際に起こったら、どのような危険があるか知ることから始めた。その後、災害の種類によって避難の仕方が違うことに気付いたり、自分の住む地域にどのような避難場所があるか調べたりする活動を通して、自分の命は、自分で守るためにできることを考える学習を行った。</p> <p>そこで学んだことを、学習発表会で保護者や地域の方々に向けて発表した。スライドを活用して写真や動画、地図を示したり、芝居形式にして危機感を演出したりすることで、保護者や地域の方々にも「自分の命は自分で守る」大切さを伝えた。</p>		
1 【知る】	「入りやすくて見えにくい」場所って、なに?(3時間)		
	1	<p>[ねらい]</p> <p>「防犯」に係る「危険な場所」とはどこか、『犯罪機会論』の提唱者である小宮教授から直接話を聞いたり、質問したりする活動を通して、自分の住む地域にも「危険な場所」があるかもしれないと気付くことができる。</p> <p>○犯罪が起りやすい「危険な場所」の見方について、オンラインで小宮教授から教えていただく。</p> <p>○教えていただいた内容について、質問をしたり、自分たちが撮影した写真を見てもらったりする。</p>	<p>◆子どもたちが、話の内容をメモできるワークシートを用意する。</p> <p>◇「入りやすくて見えにくい」というキーワードに着目してメモをとることができる。(ワーク)</p> <p>◆夏休み中に撮った「危険な場所」の写真の中からいくつか事前に用意しておく。</p> <p>◇「入りやすくて見えにくい」というキーワードに関連した質問をしたり、写真を見せたりすることができる。(発言)</p>
	2	○「入りやすくて見えにくい」という観点から、自分たちが夏休みに撮った写真を見直す。	<p>◆「入りやすくて見えにくい」場所について、前時を振り返る。</p> <p>◆見方に対する意識に個人差があると考えられることから、学級全体で写真を見直す。</p> <p>◇「入りやすくて見えにくい」という観点から、写真を見直すことができる。(発言・態度)</p>
	3	○「入りやすくて見えにくい」という観点から、自分の住む地域に「危険な場所」がないか、もう一度考える。	◇自分の住む地域の「入りやすくて見えにくい」場所がないか、もう一度、探してみたいと考えることができる。(発言・態度)

UNIT	時	○活動内容	◆留意点 ◇評価
2 【調べる】	地いきに「入りやすくて見えにくい」場所は、あるかな?(5時間)		
	1	<p>[ねらい]</p> <p>保護者と共に地域を散策したり、Google Mapを活用して探したりする活動を通して、自分の住む地域に「危険な場所」がないか探することができる。</p> <p>○実際に学校周辺を歩いたり、Google Mapを活用したりしながら、「入りやすくて見えにくい」場所があるか探す。</p>	<p>◆社会科「わたしたちのまちと市」単元と関連させ、地図の見方や方角を取り入れる。</p> <p>◆必要に応じて、地域コーディネーターやボランティアを募る。</p> <p>◇進んで「入りやすくて見えにくい」場所を見付けようとするすることができる。(態度)</p>
	2	○「入りやすくて見えにくい」という観点から保護者ともう一度自分の住む地域の「危険な場所」を探す方法を考える。	<p>◆放課後や休日に、児童と探せるよう、保護者に事前をお願いする。</p> <p>◇どのような方法で保護者と探せるか考えることができる。(発言)</p>

UNIT	時	○活動内容	◆留意点 ◇評価
2 【調べる】	3	[ねらい]	
	4	みんなが探した「危険な場所」を吟味する活動を通して、自分の住む地域に「危険な場所」がいくつもあることに気付くことができる。	
		○保護者と一緒に探した、自分の住む地域の「入りやすくて見えにくい」場所をそれぞれ発表し、どこが「入りやすくて見えにくい」場所になっているか意見を出し合う。	◆「入りやすくて見えにくい」場所がどのような場所だったか見直すために、小宮教授が発信しているYouTubeを見て確認する。 ◇「入りやすくて見えにくい」場所の特徴を捉えながら、自分の意見を発表することができる。(発言)
	5	○Google Mapを活用して、学区内のそれぞれの地域で探した「入りやすくて見えにくい」場所を確認する。	◆地図で場所を探す活動を通して、UNIT3の『安全マップ』づくりにつなげる。 ◇学区の様々なところに「危険な場所」があることに気付くことができる。(発言・態度)

UNIT	時	○活動内容	◆留意点 ◇評価
3 【気付く】	「人」ではなく「場所」が大切！（5時間）		
	1	[ねらい] 「危険な場所」について、『安全マップ』にまとめる活動を通して、犯罪機会を「人」で判断するよりも「危険な場所」で判断する方が分かりやすいと気付くことができる。	
		○自分の住む地域の「危険な場所」を表す方法として、『安全マップ』があることを知る。	◆『安全マップ』のつくり方について、小宮教授が発信しているYouTubeを見る。
		○自分の住む地域の「危険な場所」が分かる『安全マップ』を、どのようにつくったらよいのか考える。	◆学年の児童数が少ないため、自分の住む地域だけでは、地図づくりに個人差ができると考え、どの保護者が見ても分かる『安全マップ』にしようとして投げかけ、学区全体の『安全マップ』になるよう配慮する。 ◆学区全体の地図を用意する。 ◇どの保護者が見ても分かる『安全マップ』にするために、どのような工夫が必要か、自分の意見を発表することができる。(発言)
	2 3	○「危険な場所」がどのような場所なのか相手に伝わるような発表方法を考えながら、栗小版『安全マップ』をつくる。	◆無地のラベルシールに写真を印刷し、すぐに貼れるよう用意する。 ◆社会科「わたしたちのまちと市」単元と関連させ、「危険な場所」周辺で目印となる建物や地形を書き入れるようアドバイスする。 ◇「危険な場所」は、「入りやすくて見えにくい」場所であると分かるように、発表内容や地図の書き方を考えることで、犯罪機会を「人」ではなく「場所」で判断することが大切であると気付くことができる。(発言・地図への書き込み)
4 5	[ねらい] 保護者に発表する『安全マップ』の見せ方や発表の仕方を見直す活動を通して、「自分を守る」ためには、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが改めて大切なことに気付くことができる。		
	○地域の方に、「危険な場所」がどこにあるか伝わるように発表する。 ○地域の方から教えてもらったアドバイスをもとに、もっと「入りやすくて見えにくい」場所と分かるよう、地図の見せ方や発表の仕方を考える。	◆他者評価をしていただくため、登下校の街頭指導にしている燕警察署生活安全課スクールサポーターの方に依頼し、発表を見ていただく。 ◇発表内容を見直すことで、改めて人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが大切であることに気付くことができる。(発言)	

UNIT	時	○活動内容	◆留意点 ◇評価
4 【伝える】	みんなも「場所」に気づいてほしい！（3時間）		
	1	<p>[ねらい] 学習参観時、保護者に「危険な場所」とは何か、『安全マップ』を活用して自分の住む地域の「危険な場所」は、どこか発表する活動を通して、機会（＝場所）に着目することの大切さを伝えることができる。</p> <p>○犯罪から「自分を守る」ために、保護者に“一番伝えたいこと”を考えながら、発表準備をする。</p>	<p>◆前時に来校した燕警察署生活安全課スクールサポーターの方からいただいたアドバイスを想起させる。</p> <p>◆自分が一番伝えたいことをはっきりさせるために、ワークシートを用意する。</p> <p>◆発表時、学習発表会で経験した方法（スライドや芝居形式）も活用できることを伝える。</p> <p>◇栗小版『安全マップ』を活用して、自分たちが保護者に“一番伝えたいこと”を伝える方法として、スライドや芝居形式といった方法も活用しようとする事ができる。（発言・ワーク）</p>
	2	<p>○栗小版『安全マップ』をもとに、犯罪から「自分を守る」ために、“一番伝えたいこと”を保護者に伝える。</p>	<p>◆学習参観日に、保護者に栗小版『安全マップ』の発表をする。</p> <p>◆保護者からも感想をいただく。</p> <p>◇保護者にも人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが大切であるということ伝えることができる。（発言・態度）</p>
	3	<p>[ねらい] 地域の方々や全校児童に、機会（＝場所）に着目することの大切さを伝える方法を考える活動を通して、これからも自分の命を守るための「防犯」に対する意欲を高めることができる。</p> <p>○発表を行っての振り返りや保護者からの感想をもとに、栗小版『安全マップ』を多くの人に伝える方法を考える。</p>	<p>◆保護者に発表した後の感想を書かせる。</p> <p>◆学習参観でいただいた保護者の感想を伝える。</p> <p>◆保護者の他に、誰に伝えたいか、どんな方法で伝えたいか、考えを整理したり、話合いのもとにしたりするため、ワークシートを用意する。</p> <p>◇機会（＝場所）に着目することの大切さを伝える方法を考えることができる。（発言）</p> <p>◇自分の命を守るための「防犯」に対する意欲を高めることができる。（発言・ワーク）</p>

3年 総合的な学習の時間（防犯教育）指導計画（全8時間程度） 燕市立吉田南小学校

・児童にアンケート実施 事前は10月2日（水）か3日（木）朝

事後は11月

次	時	学習内容	・留意点 ◇評価
1		犯罪が起こりやすい「危険な場所」はどんな場所か知ろう。	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪、特に誘拐が起こりやすい、「危険な場所」の「景色の見方」について、講話を行う。 <p>10月3日(木)5限 学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTube 動画「「あぶないところって どんどこ？」(31分)を活用する。 ・これまでに危険だと児童が認識している「交通安全」「防災」の観点での場所とは異なる。児童の考えを認めつつ、「防犯」へ意識を向けていく。 <p>◇「入りやすく」「見えにくい」という2つのキーワードの意味を理解する。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・がんこちゃん「ここはあぶないよ！あそこはだいじょうぶ」YouTube 視聴？12分 ・クイズ形式で、写真を見て、防犯上危険な場所を見分ける。「犯罪を社会学しませんか？」(ウェブオープンキャンパス模擬授業) 11分38秒～5問(職員撮影の写真を見て、防犯上危険な場所かどうかを考える。) ・地域安全マップ作成について詳しく知り、活動のイメージをもつ。(目的意識・相手意識) ・家庭で写真を撮ってくる課題について確認する。 <p>10月7～9日のいずれかに授業 学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真をネットから使用する。(職員で写真を撮ってきたものも提示する。) <p>◇キーワードを根拠として、防犯に係る「危険な場所」を見極めることができる。</p> <p>◇危険予測に必要なことは、「人」ではなく「景色」であることを理解する。</p>

2	通学路や自分の地域で犯罪が起こりそうな危険な場所を調べる。	
課外	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、学区の一地域をフィールドワークで巡ることで、景色の見方を学ぶ。 ・10月10日(木)昼休み～5限 町協の方にお知らせし、可能な方に参加していただく。学級ごとに方面を変えて出かける、または、学年一斉に行く。撮ってきた写真を見て、確認する。 ・クロームブック写真撮影 担任 <p>・「入りやすく」「見えにくい」場所を、クロームブックで撮影する。</p> <p>・保護者向けの文書を作成し、宿題の際に配付。</p> <p>・10月11日～21日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人を写さない、家の中を写さない。 ・自分の町内で2～3枚程度あればよい。
3	地域安全マップを作ろう	
	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮ってきた写真を互いに見合い、交流して、景色に着目しながら危険かどうか検討する。(学習参観10月30日。保護者にも入ってもらおう。) <p>2</p> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と交流したことをもとに、グループで各地域の地域安全マップを作成する。 	<p>◇「入りやすい」「見えにくい」というキーワードをもとに、根拠をもって説明することができる。</p> <p>◇仲間と協力し、「地域安全マップ」を作成することができる。</p>
4	「全校のみんな、地域の人に伝えよう」	
	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した地域安全マップを分かりやすく伝える方法を話し合い、準備をする。 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に伝える。(町協の方を招待する。) ・全校の人に伝える。(給食時、代表児童が放送連絡し、掲示する。) 	<p>◇仲間と協力し、作成した「地域安全マップ」を説明することができる。</p>

2年 防犯教育 指導計画（全3時間） 燕市立吉田中学校

1 ねらい

- ・犯罪機会論について知ることを通して、景色解読力を身につけることで、危険を予測し、判断できるようにし、犯罪被害を未然に防ぐ方法を身につける。
- ・地域や商業施設などの現実の生活場面以外にも、中学生が巻き込まれやすい犯罪被害について考えることを通して、インターネット上の犯罪被害を防止するためにはどのようにすればよいか考える。

2 実践

UNIT 1（知る） 不審者対策避難訓練 全学年対象

○不審者対策のための避難訓練を行う。

○避難後の全体指導で、犯罪機会論や景色解読力について知る。

※防犯アニメ「あぶないところってどんなところ？」視聴

- ・不審者は、見た目では判断できないことや、連れ去りなどの犯罪は、子ども自らの意思で行った事例が圧倒的に多いことを知る。
- ・犯罪は、動機を抱えた人が、犯罪の機会（犯罪が成功しそうな場所・状況・環境）に出会って初めて犯罪が起こるという「犯罪機会論」について知る。
- ・犯罪が起きやすい場所は、誰もが（犯人も）「入りやすく」、誰からも（犯行が）「見えにくい」場所であることを知り、心理的・物理的に「入りやすく見えにくい」場所はどこか考え、理解を深める。

UNIT 2（共有する） 避難訓練の振り返り

○避難訓練後の振り返りを Google フォームで実施する。

○振り返りをテキストマイニングにまとめ、全校で共有する。

- ・実際の頻度ワード 一覧

にくい	やすい	見える	入る	危険な	見た目	不審者
判断	景色	ガードレール	公園	田んぼ		

UNIT 3 (深める) 第2学年保健体育 4章 傷害の防止 3 犯罪被害の防止

○ねらい

インターネット上の「入りやすく・見えにくい」ところを考える活動を通して、個人情報を教えることやインターネットの向こうにいる知らない相手と交流する場合の危険性を理解させ、安全にインターネットを利用しようとする態度を身に付ける。

○展開

時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	○教師の指導・支援 ◎評価		
導入 7分	○犯罪機会論と犯罪が起きやすい場所について復習する ・入りやすく見えにくい場所がキーワード ・物理的な「入りやすく見えにくい」場所 →死角がある、視線がない ・心理的な「入りやすく見えにくい」場所 →無関心、不特定多数の人が集まる場所	○スライドを使って可視化することで、避難訓練の際の指導を想起させる。 ○危険な場所は、「景色」で判断することを確認する。		
展開 35分	○インターネット上の入りやすく見えにくいところを考える <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 入りやすい ・サイト全般 ・アプリのインストール ・SNS(X, Instagram) </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 見えにくい ・相手のこと 顔、名前、性別 年齢、気持ちなど ・真実 ・鍵アカウント上の投稿内容 </td> </tr> </table> ○インターネット上の安全なやりとりについて考える ※県SNS教育プログラム	入りやすい ・サイト全般 ・アプリのインストール ・SNS(X, Instagram)	見えにくい ・相手のこと 顔、名前、性別 年齢、気持ちなど ・真実 ・鍵アカウント上の投稿内容	○地域や商業施設以外で、防犯に注意しなければならないことは何か考えさせ、ネットやSNSに気付くよう促す。 ○インターネット上の「入りやすく見えにくい」についてグループで考え、発表させる。
	入りやすい ・サイト全般 ・アプリのインストール ・SNS(X, Instagram)	見えにくい ・相手のこと 顔、名前、性別 年齢、気持ちなど ・真実 ・鍵アカウント上の投稿内容		
課題：インターネット上で知り合った相手と交流する場合に気を付けるべきことは何か。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ゲームサイトで知り合い、仲良くなった友だちがいます。今度実際に会って話したいという誘いがありました。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・誘われて嬉しかったと思う ・優しくしてくれたから大丈夫だと感じた ・電話番号や名前を教えてくれたから信じた ○ネット上で、知り合った人に自分の個人情報を教えるとどんな危険があるか考える ・住所を特定され、待ち伏せされる。 ・把握された個人情報もとに脅迫される	○どのような迷いが生じるか考えさせる。 ○SNSの特性(向こう側の相手が見えない)を踏まえ、信じてしまう心理を考えさせる。 ◎ネットの特性を踏まえ、個人情報漏洩の危険性を理解することができる。		
終末 8分	○本時のまとめ 危険を予測して、気を付けることを書き出す。 ・相手のことを簡単に信じない ・本名などの個人情報を教えない ・個人情報を聞かれたり、写真を送って欲しい、会いたいと言われたりしたら変(危険)だと思う。 ○本時の活動を振り返る。	○「どのような特徴があったら、怪しいと判断すればよいか」という危険を予測させ、正しい情報と判断するには、どうすればよいか(どこで「危ない」と判断するか)を考えさせる。 ◎ネットを利用する際、自分がこれから気を付けることをまとめることができる。		

○参考文献 新潟県SNS教育プログラム(小中学校編)令和4年3月

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

燕市立粟生津小学校
教頭 金田 裕介

1 単元名 「自分を守る防犯」

2 単元のねらい

- 『犯罪機会論』による防犯の方法として提唱されている「入りやすく見えにくい場所」という景色の見方を学ぶことを通して、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目して、犯罪から身を守るための自分なりの方法を考えることができる。

3 学校安全に係る授業について

学校安全に関わり、1学期の総合的な学習の時間（以下、総合）で「防災」について学習した。まずは、身近に起きる可能性のある災害（地震、津波、風水害）が実際に起こったら、どのような危険があるか知ることから始めた。その後、災害の種類によって避難の仕方が違うことに気付いたり、自分の住む地域にどのような避難場所があるか調べたりする活動を通して、自分の命は、自分で守るためにできることを考える学習を行った。そこで学んだことを、10月に行った学習発表会で発表した。スライドを活用して写真や動画、地図を示したり、芝居形式にして危機感を演出したりすることで、保護者や地域の方々にも「自分の命は自分で守る」大切さを伝えた。

引き続き、2学期の総合では、「防犯」について学習する。「防災」についての学習と同様、まずは、登下校を含む学校生活の中で、どのような犯罪機会があり、どのように気付いたらよいか知ることから始める。その後、犯罪に遭遇しないための見方をもとに、自分の住む地域の場所に着目して、犯罪から「自分を守る」ためにできることを考える学習を行っていく。

4 児童の実態

初めて「防犯」についての授業を行ったとき、まずは、登下校中に起きそうな犯罪について考えた。児童からは、「不審者がお菓子で誘ってくるかもしれない。」「不審者に変なところに連れて行かれるかもしれない。」と、『不審者』という言葉が中心となって考える姿があった。

一方、事前アンケートでは、「危険な場所」に係る項目について「よく分からない」や「どう考えてもそう思わない」に○を付ける児童が多かった。

そこで、『不審者』に誘われたり、連れて行かれたりする場所とはどこか、事前に撮影した写真を見ながら考える時間を設定した。すると、児童は、人気のない暗く細い道を撮影した場所の写真を選んだ。しかし、駅のように開けているが、時間帯によって人がほとんど通らない場所を撮影した写真は、開けているという理由でほとんどの児童が選ばなかった。児童にとって、犯罪が起きる要因として、「場所」ではなく「人」であると捉えていることが分かった。

5 具体的な手立て

○ 防犯に係る『犯罪機会論』について、提唱者が直接授業を行う場の設定

『犯罪機会論』の提唱者である立正大学 小宮 信夫 教授から景色の見方を学ぶ授業を行っていただく。その中で「入りやすく見えにくい」という場所の見方について直接教えていただくことで、その見方で自分の住む地域の場所をもう一度見直す必要性に気付き、犯罪に遭遇する機会を減らすために、自分ができることを考える児童の姿を期待する。

○ 自分の住む地域の危険な場所について、関心をもたせるための課題の提示

登下校中に犯罪が起りそうな危険な場所について、「場所の見方」をもとに自分なりの視点で考えられるよう、夏季休業中にその場所の写真撮影する課題を提示した。保護者と共に時間をかけて一緒に防犯について考えながら自分の住む地域を周ることで、どのような場所が危険であるか、関心をもつ児童の姿を期待する。

○ 「自分を守る」方法をより具現化するための場の設定

自分なりに見つけてきた場所にどのような危険があるのか、その危険をどのように防いでいくとよいのか、話し合いながら具現化できるための場として、『安全マップ』づくりを行う。そうすることで、「自分を守る」ための方法をより具現化しようとする児童の姿を期待する。

6 単元計画（全16時間）

UNIT 1	知る（3時間）
○ 「入りやすく見えにくい」という場所の見方について知る。	
UNIT 2	調べる（5時間）
○ 見方をもとに、自分の住む地域の「入りやすく見えにくい」場所を調べる。	
UNIT 3	気付く（5時間）※本時5/5
○ 人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが大切であるということに気付く。	
UNIT 4	伝える（3時間）
○ 保護者や地域の方々に、自分たちが調べて気付いたことを伝える。	

7 本時の構想

(1) ねらい

- 学習参観時、保護者に発表する『安全マップ』の見せ方や発表の仕方を見直す活動を通して、「自分を守る」ためには、人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが改めて大切であることに気付くことができる。

(2) 展開

時間	活動内容	◆留意点 ◇評価
5分	T 学習参観でお家の人に『安全マップ』を発表するけれど、どんなことを伝えたいかな。 C 「入りやすく見えにくい・まっ、いっか」となる場所を教えたい。 C 「入りやすく見えにくい・まっ、いっか」となる場所と言うだけで、うまく伝わるかな。 C 『不審者』は、関係ないよ」ということも伝えられないかな。	◆前時に来校した燕警察署生活安全課スクールサポーターの狩野様からいただいたアドバイスも想起させる。
10分	◎ 犯罪から「自分を守る」ために、お家の人に一番伝えたいことを考えながら、発表の準備をしよう。 T ワークシートに、自分がお家の人に一番伝えたいことを書きましよう。 C 「入りやすく見えにくい・まっ、いっか」となる場所がどんなところか伝えたい。 C 不審者を見つけるのではなくて、場所を見つけることが大切だと伝えたい。	◆自分が一番伝えたいことをはっきりさせるために、ワークシートを活用する。 ◆学習発表会で経験した方法（スライドや芝居形式）も活用できることを伝える。
25分	T 自分が伝えたいことが伝えられるよう、発表の準備をしましよう。 C 「まっ、いっか。」の意味を分かりやすく伝えるために、言い方を工夫してみよう。 C スライドを使って、分かりやすく伝えよう。	◆参会者にも協力いただき発表を聞いてもらう。 ◇『安全マップ』をより効果的に活用するために、スライドや芝居形式といった方法も活用している。（発言・態度）
5分	T 発表するとき大切なことを確かめましよう。 C 不審者ではなく、「入りやすく見えにくい」「まっ、いっか」という場所に気をつけること。	◇保護者にも人（＝不審者）ではなく、機会（＝場所）に着目することが大切であるということに気付く。（振り返り）

事前・事後の防犯調査

【児童生徒・保護者】

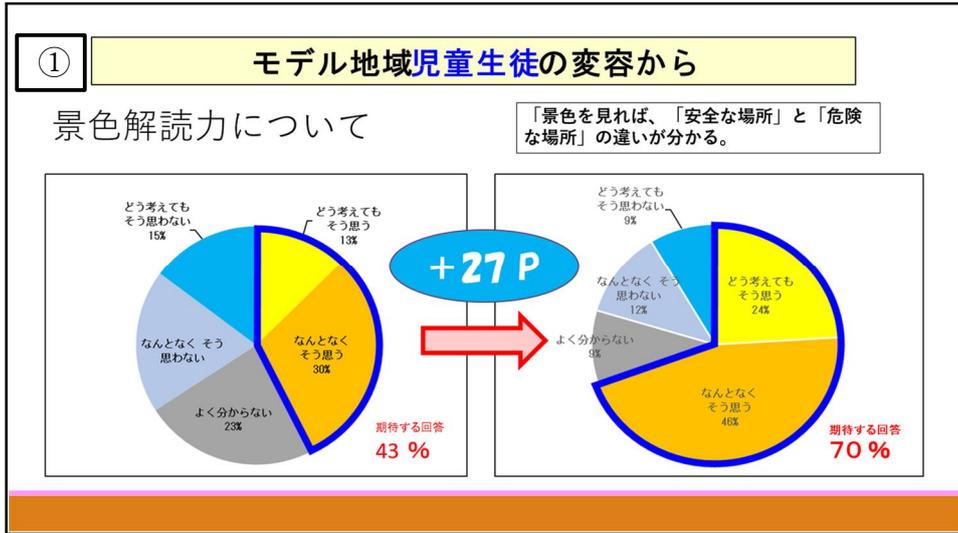
防犯調査

燕市立栗生津小学校3年生・吉田南小学校3年生・吉田中学校2年生の児童生徒、並びにその保護者を対象に防犯調査を実施。事業の事前と事後の調査で、児童生徒とその保護者の防犯の知識や考え方の変容を確かめる。

主な防犯調査の結果から

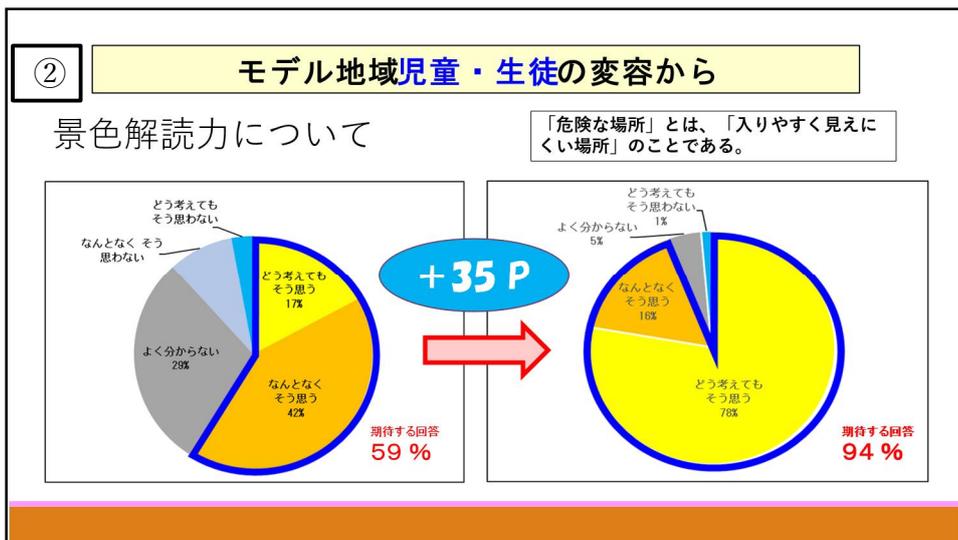
景色解読力（けしきかいどくりょく）の変容

大阪教育大学の藤田教授※1は、令和6年度の文部科学省主催の学校安全指導者養成研修で、「犯罪が起きやすい場所というのは、領域性が低くて、監視性が低い場所。」と講義されました。つまり、「誰もが入りやすく、誰からも見えにくい場所」を、犯罪者は好んでいると考えられ、「犯罪機会論」は、この様な場所で「犯罪の機会を与えないことによって、犯罪を未然に防止しよう」とする考え方のことを言います。



この調査では、児童生徒が「安全な場所」と「危険な場所」の違いが分かるかの変容を確かめました。結果は、+27ポイントでした。

※1 平成13年の附属池田小学校での無差別殺傷事件後、平成19年から4年間、校長として、事件後の学校安全の再構築に取り組んだ。SPSの認証制度を平成26年に創設。現在、大阪教育大学健康安全教育系 教授/学長補佐（学校安全担当）・学校安全推進センター長



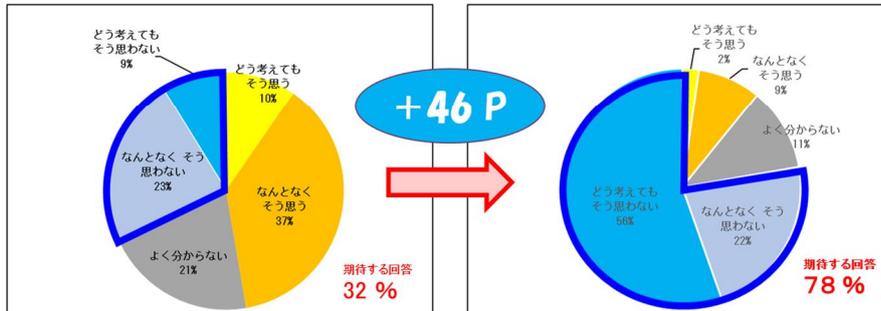
「入りやすく見えにくい場所」というのは「危険な場所」のことを言っていることが、知識として定着しているかを確認するための調査です。モデル校での防犯教育を通して、多くの児童生徒に定着したことがわかります。

②危険の判断（危機察知能力）の変容

③ モデル地域児童・生徒の変容から

危険の判断について

「怪しい人」は見ただけで分かる。

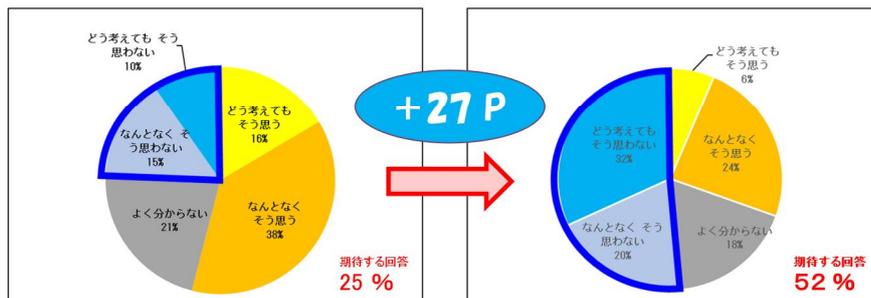


危険なのかどうかは、「人」で判断するのではなく「場所」で判断できるようになったかを確認する調査です。もちろん「場所」とは、「入りやすく見えにくい場所」のことです。「人」を見た目で判断することはできない、という考えに変容した児童生徒が+46ポイントでした。

④ モデル地域児童・生徒の変容から

危険の判断について

「悪い人」はマスクをしていることが多い。

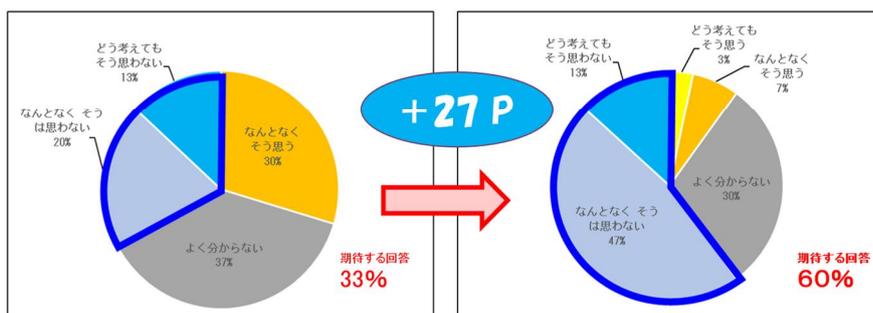


この調査も同様に、危険の判断を「人」でしていないかを確認する調査です。小学生は特に、「マスクとサングラスをしている人は不審者」という固定観念が強く残っていますが、「場所」で判断させます。

③保護者の調査結果から

⑤ モデル地域保護者の変容から

危険の判断について 不審者は見ただけで分かる。

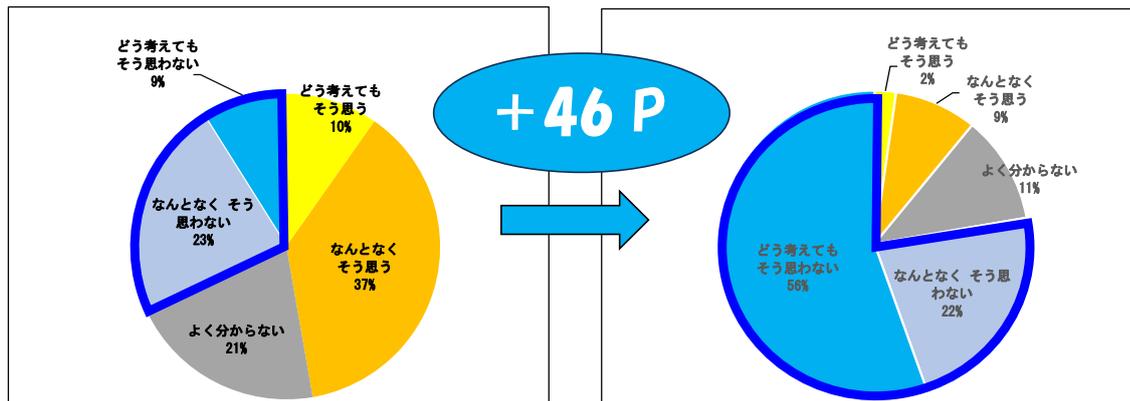


「防災教育のための単元 UNIT シート」では、UNIT4で「伝える」学習があります。学校と保護者、そして地域と連携した防犯教育に取り組むことが、児童生徒が安心して生活できるまちづくりに繋がります。

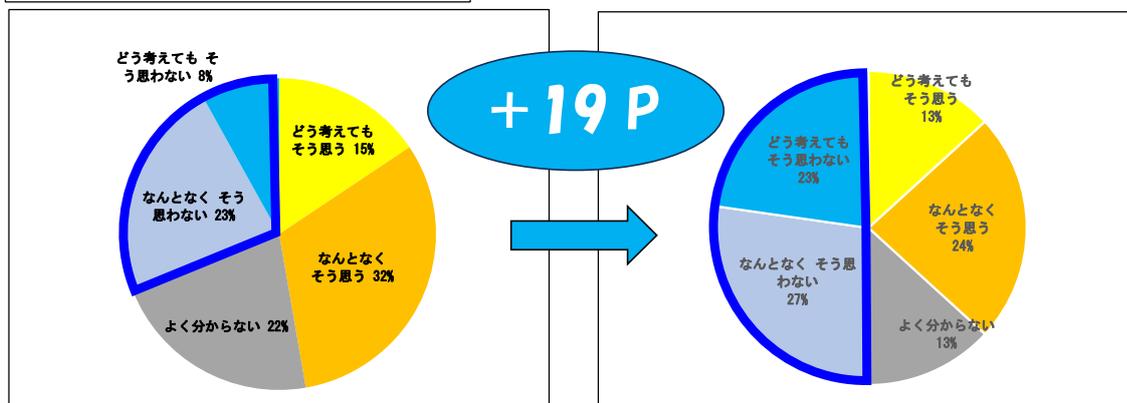
事業の事前・事後に行った防犯調査結果の比較

児童生徒版

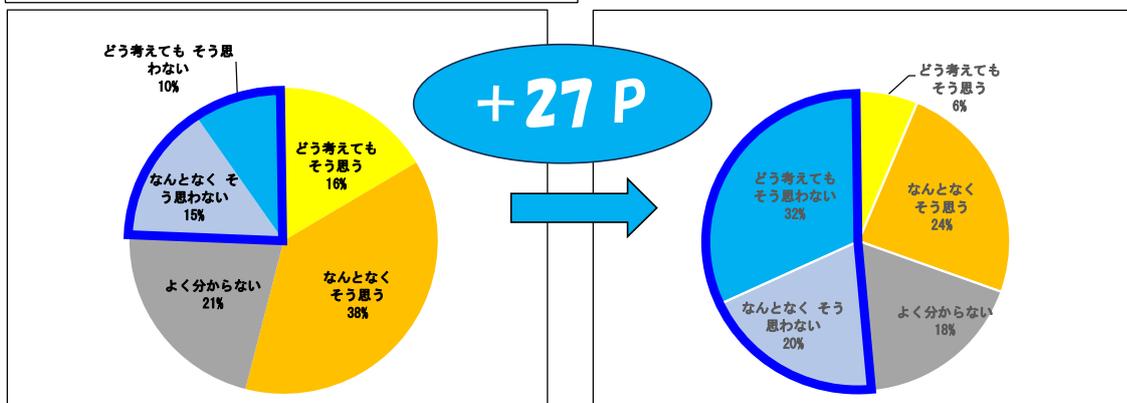
① 「怪しい人」は見ただけで分かる。



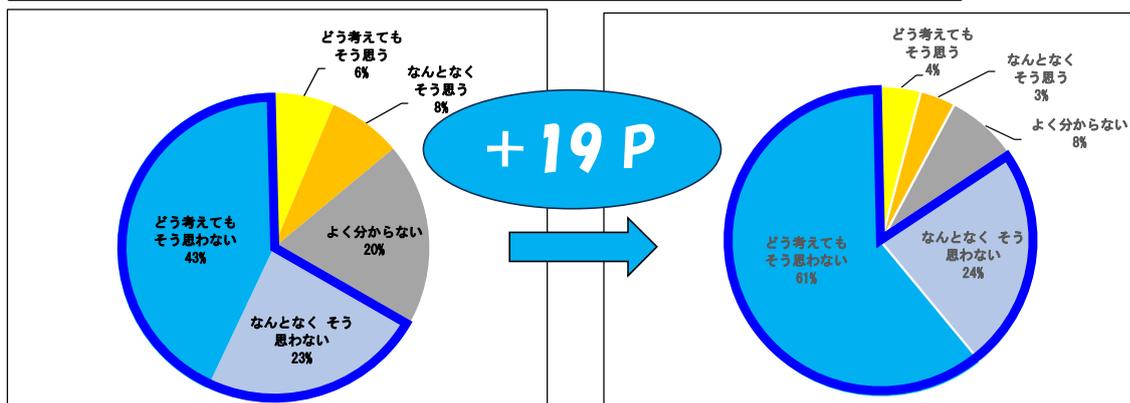
② 「悪い人」はいきなり襲ってくる。



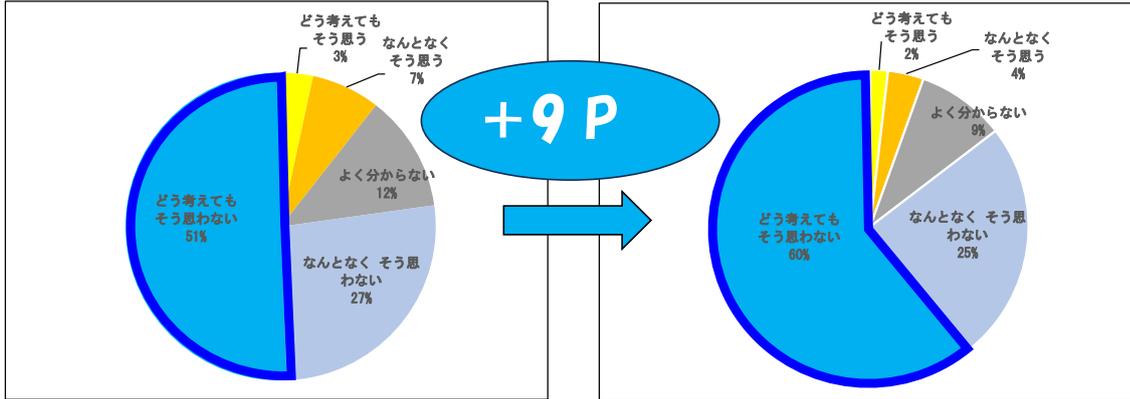
③ 「悪い人」はマスクをしていることが多い。



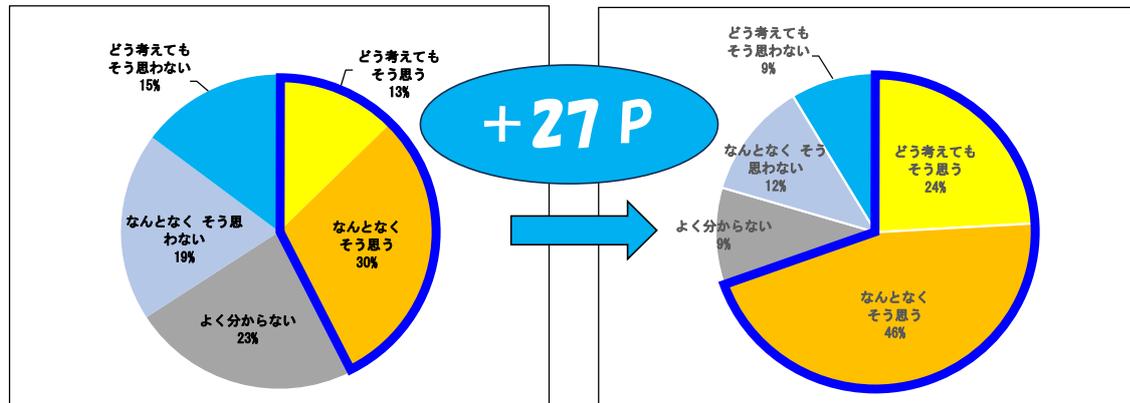
④ 危ない目にあったとき「子ども110番の家」ではない家に逃げてはいけない。



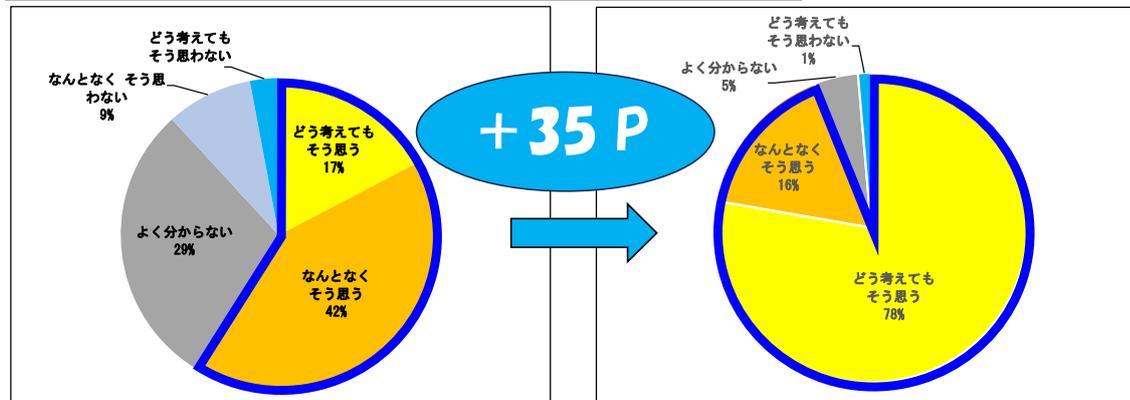
⑤「安全な場所」であれば知らない人といろいろお話してもよい。



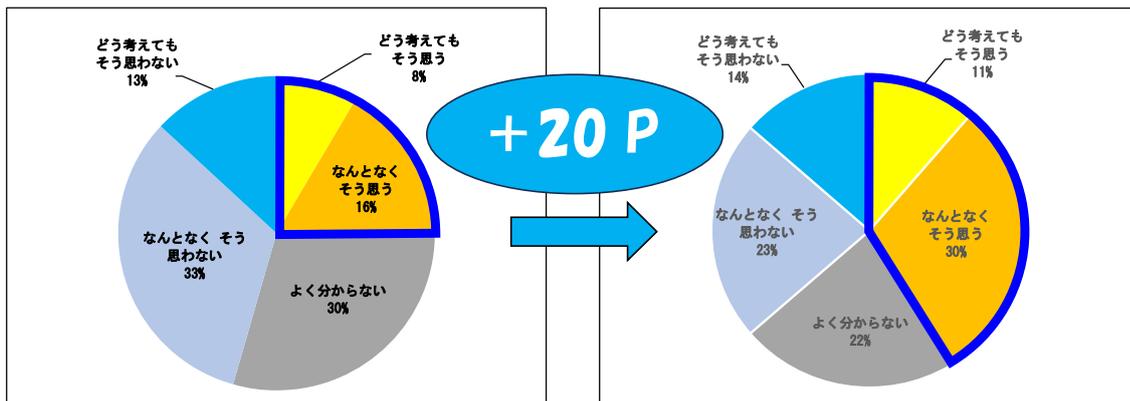
⑥景色を見れば「安全な場所」と「危険な場所」の違いが分かる。



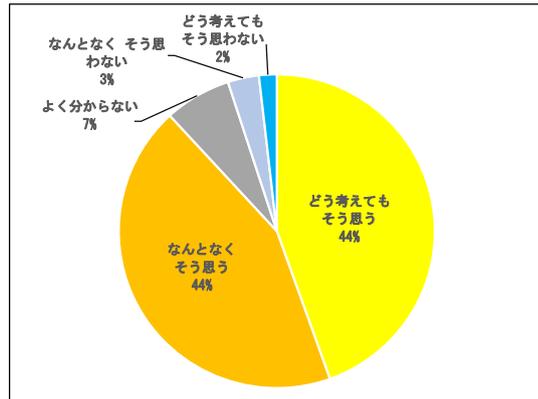
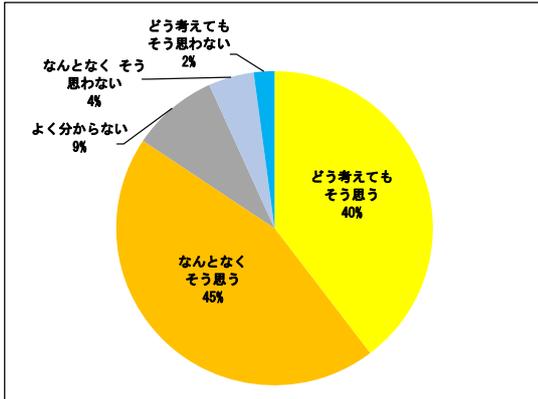
⑦「危険な場所」とは「入りやすく見えにくい場所」である。



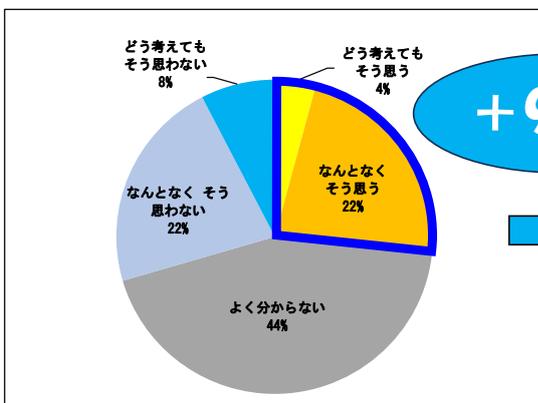
⑧人通りの多い場所は「危険な場所」である。



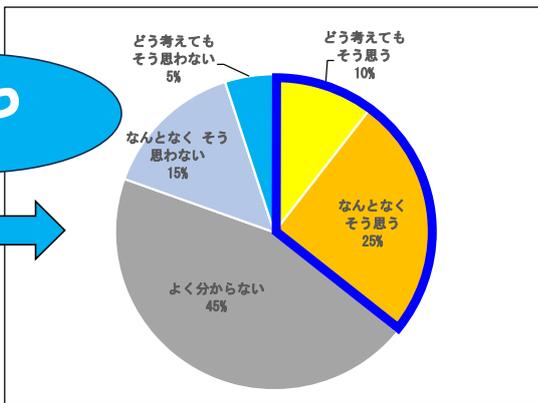
⑨暗い道は「危険な場所」である。



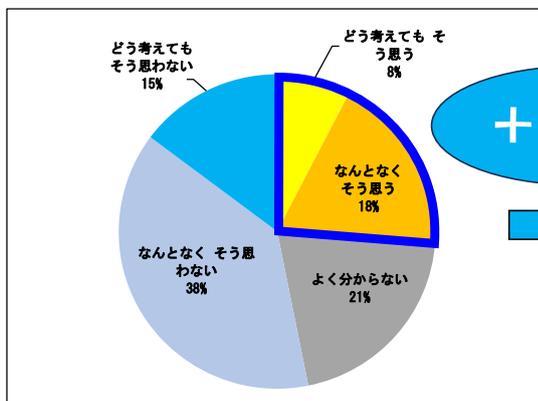
⑩子どもの遊び場になっている神社は「危険な場所」である。



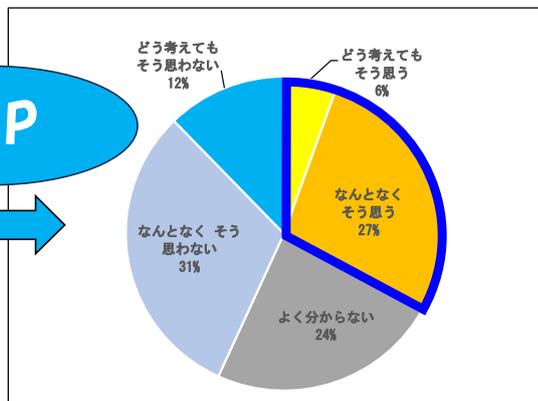
+9P



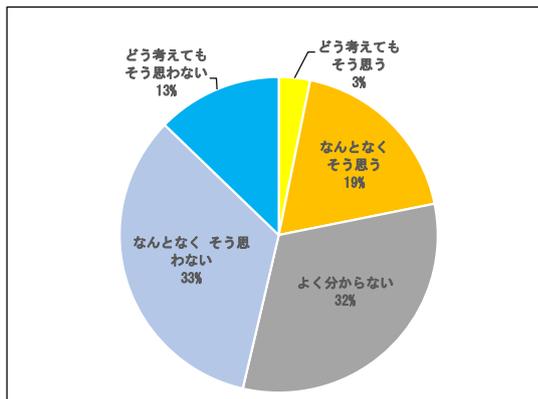
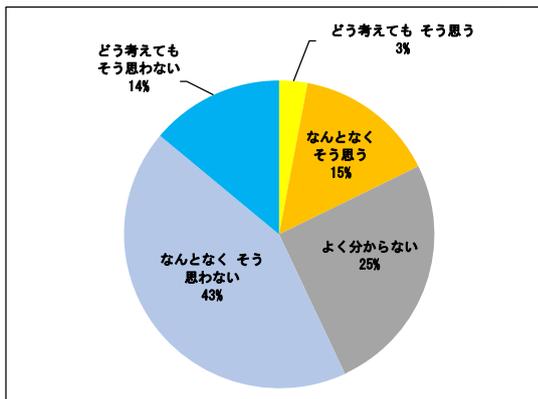
⑪ショッピングセンター（※ターミナル・ショッピングプラザなど）は「危険な場所」である。



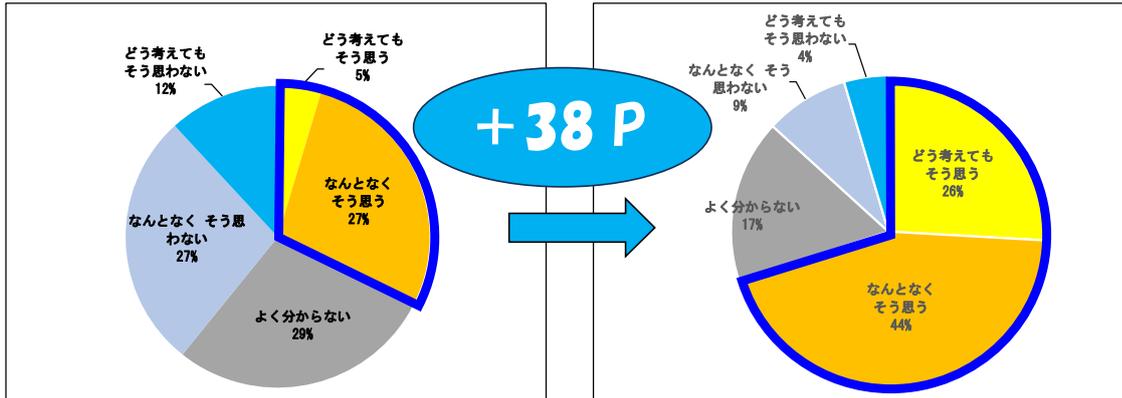
+7P



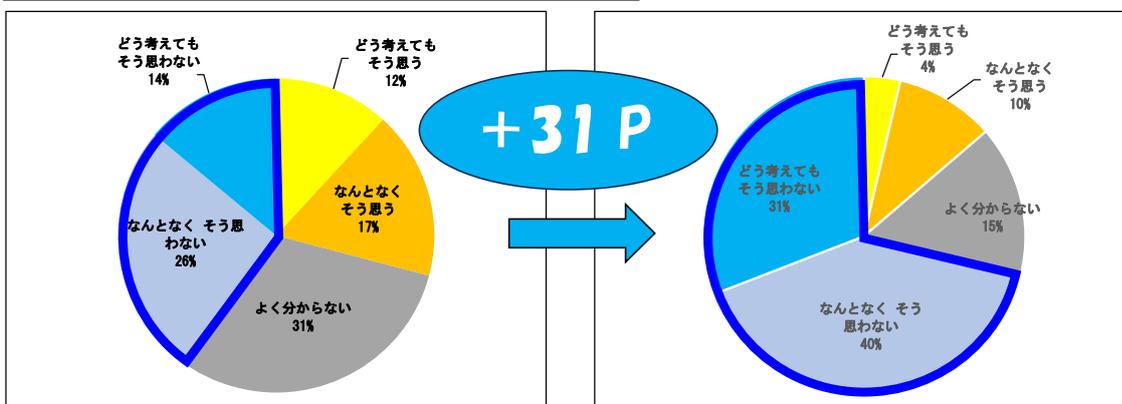
⑫学校の周辺は「危険な場所」である。



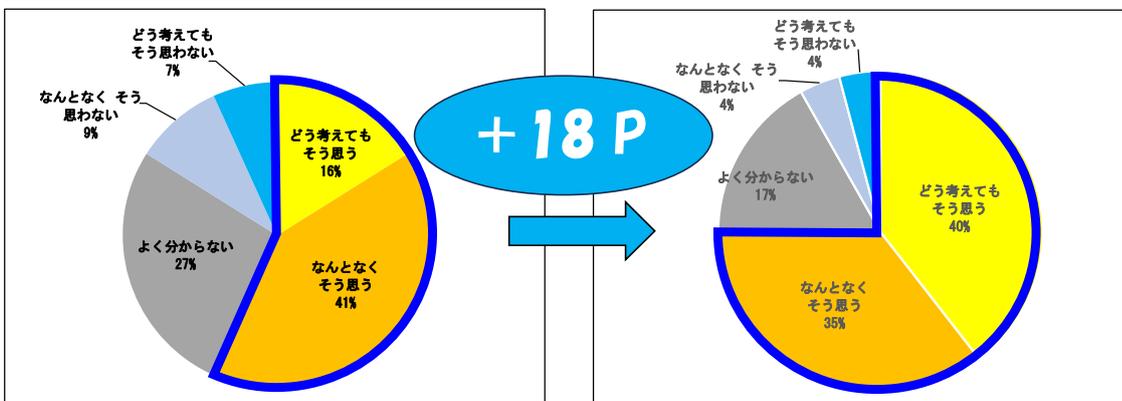
⑬周りが田んぼの道は「危険な場所」である。



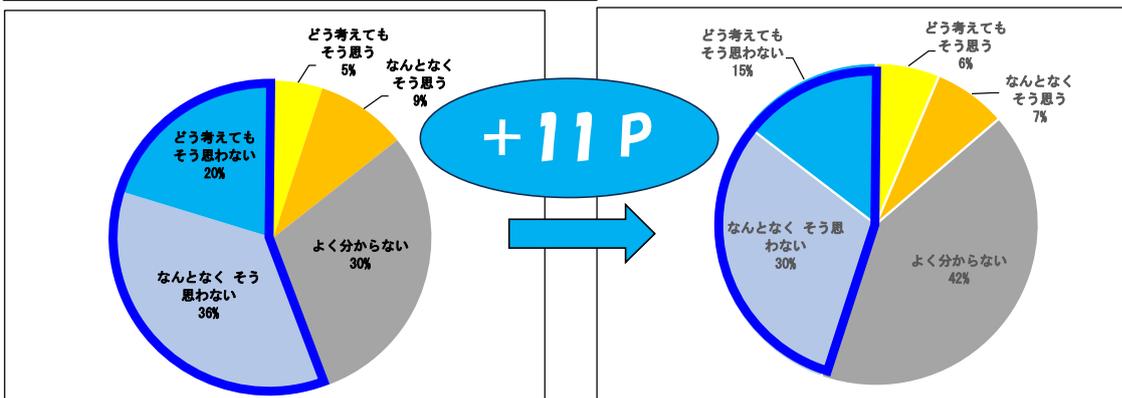
⑭ガードレールがある道は「危険な場所」である。



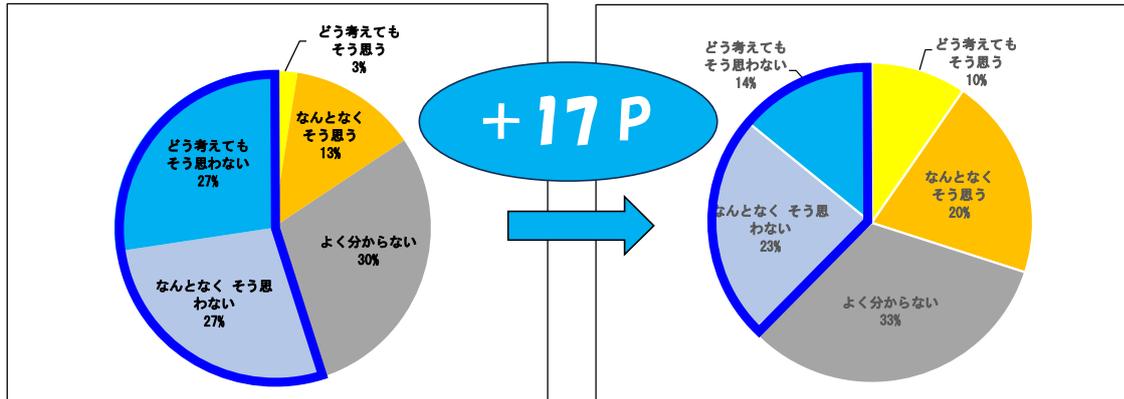
⑮落書きが多い道は「危険な場所」である。



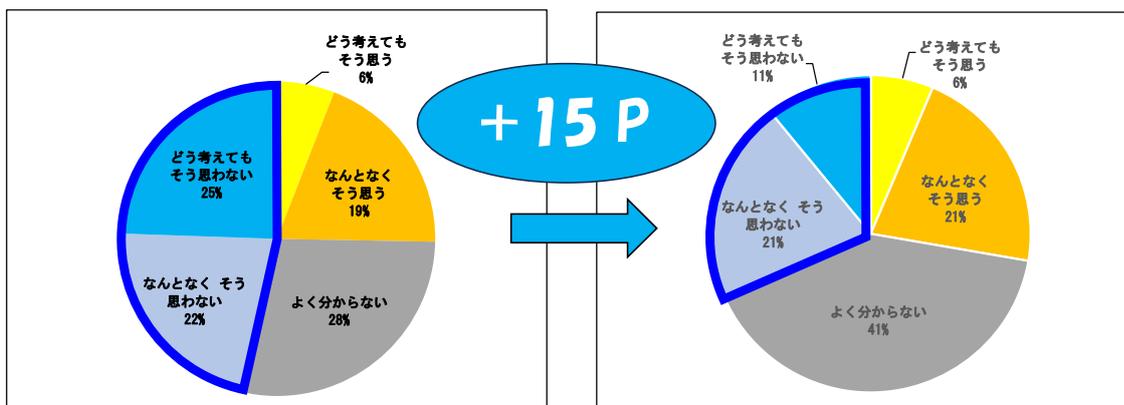
⑯花が飾ってある道は「危険な場所」である。



⑰公園の遊具の前にベンチがあると「危険な場所」になる。



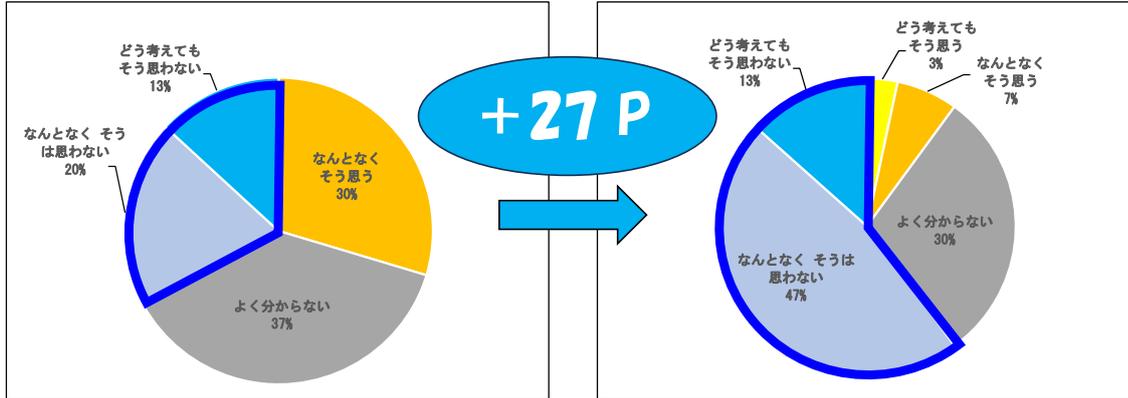
⑱公園の前に駐車場があると「危険な場所」になる。



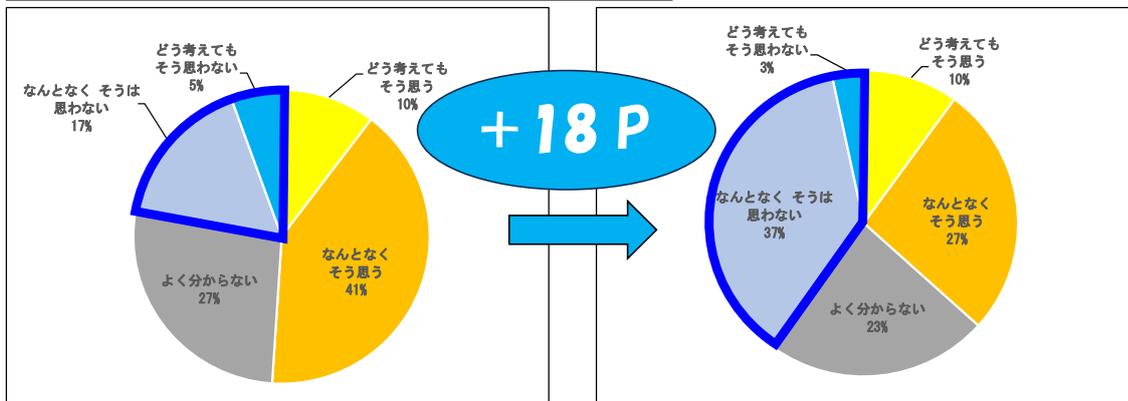
事業の事前・事後に行った防犯調査結果の比較

保護者版

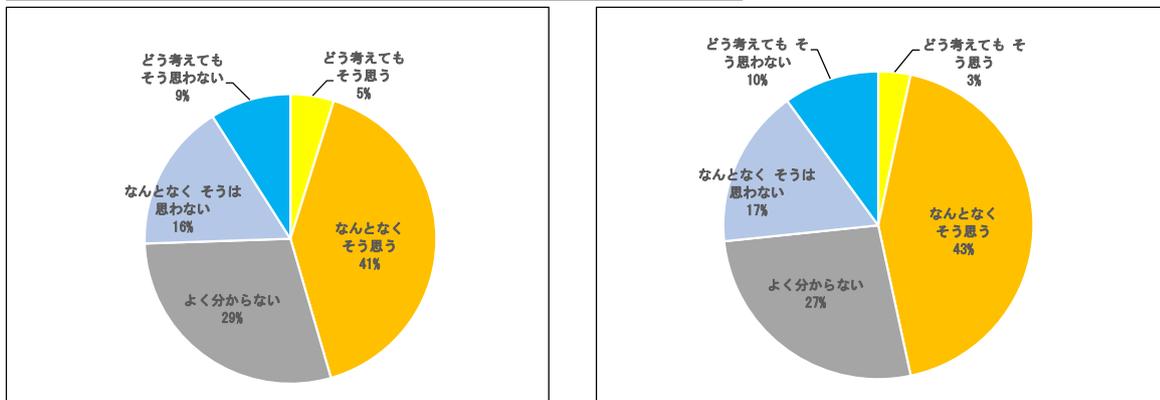
①不審者は見ただけで分かる。



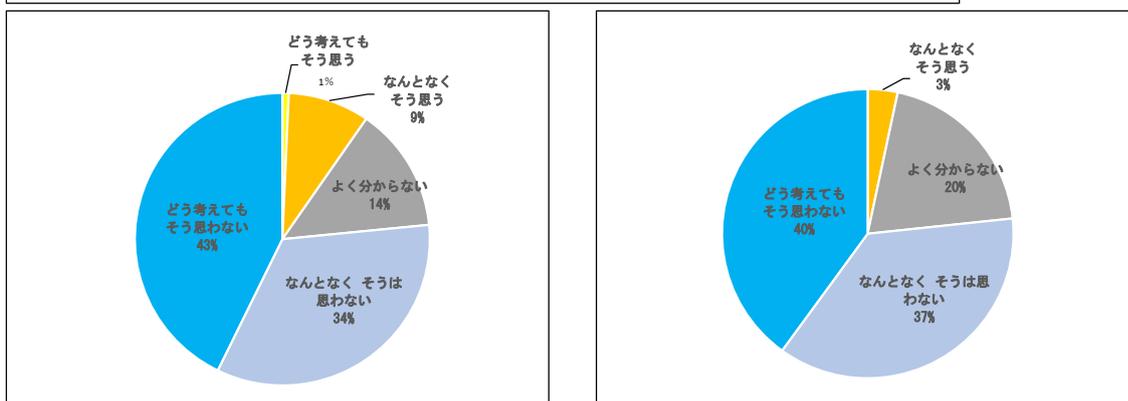
②子どもを狙った犯罪者は、いきなり襲ってくる。



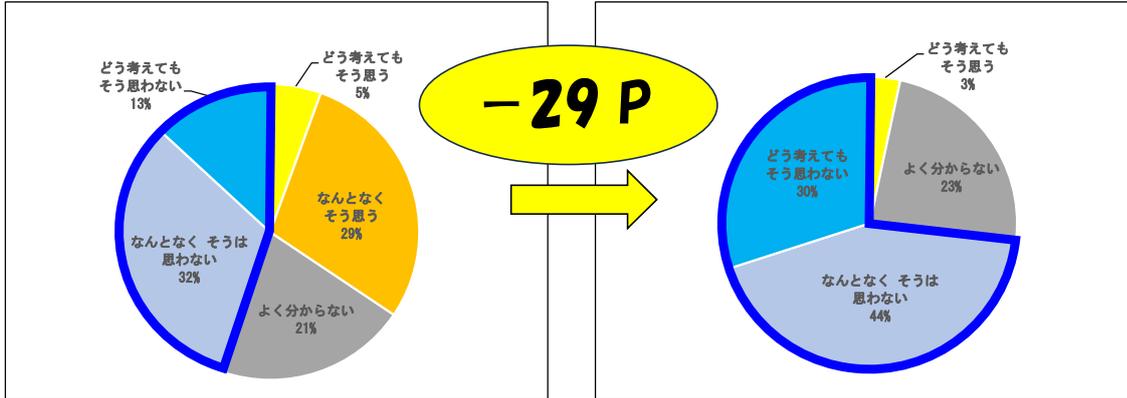
③子どもを狙った犯罪者は、マスクをしていることが多い。



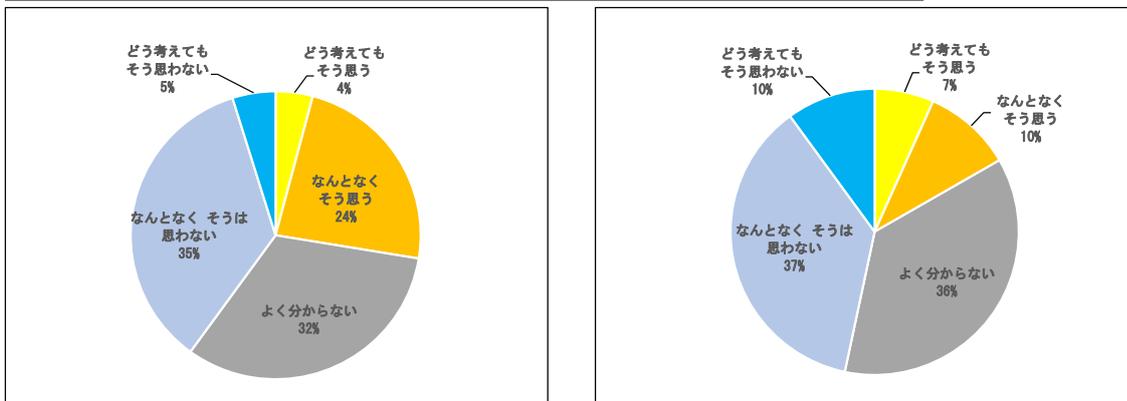
④危ない目にあったとき「子ども110番の家」にしか逃げられない。



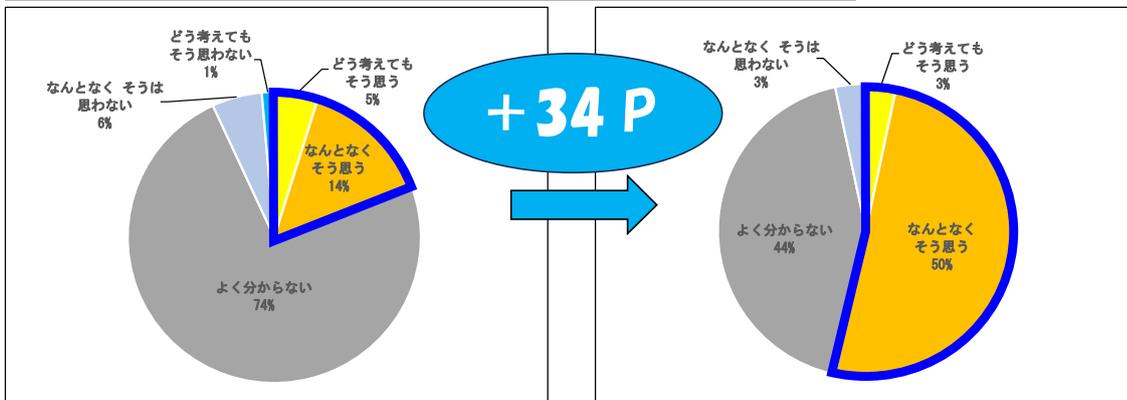
⑤「安全な場所」であれば知らない人とも積極的に話すべきである。



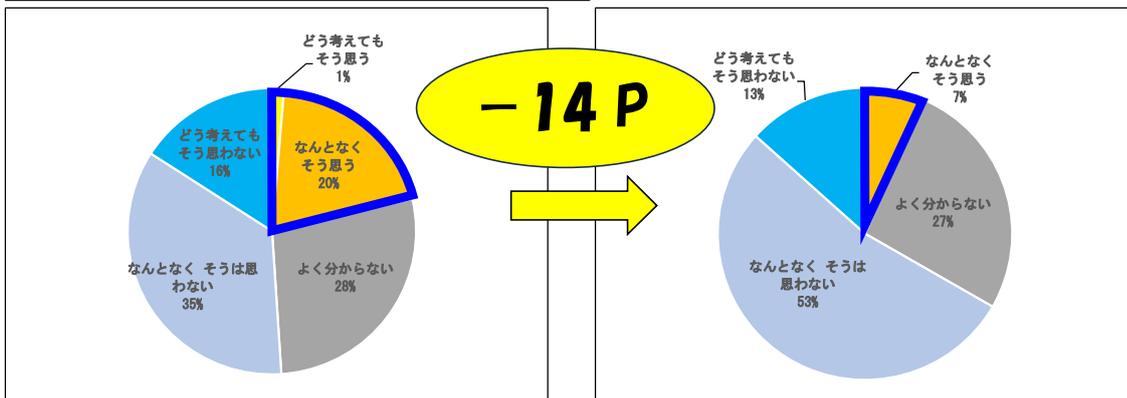
⑥地域安全マップは、子どもが作るよりも大人が作って配付した方がよい。



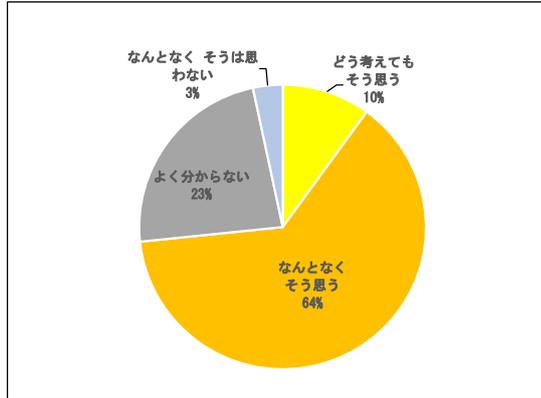
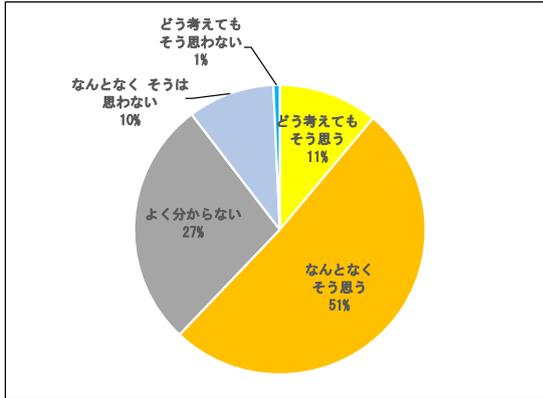
⑦ホットスポットとは「入りやすく見えにくい場所」のことである。



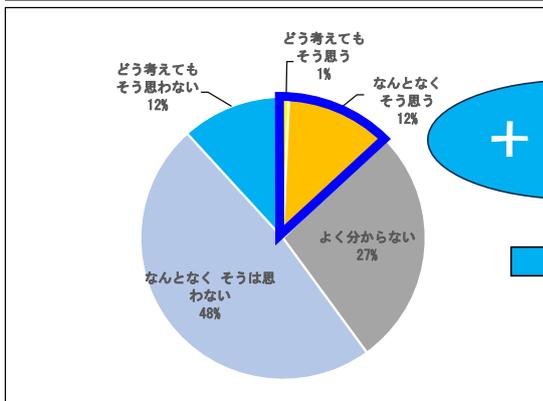
⑧安全と危険は、景色を見れば区別できる。



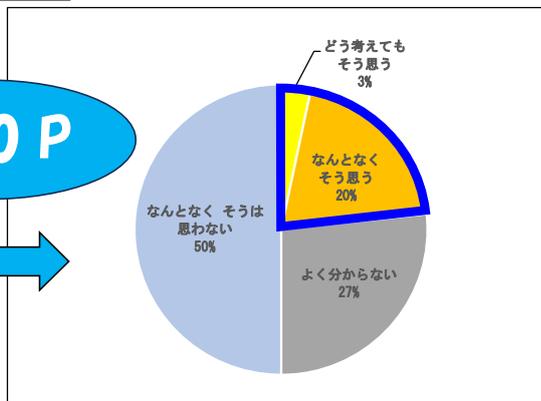
⑨ホットスポット・パトロールは、多くの人員と多くの時間が必要になる。



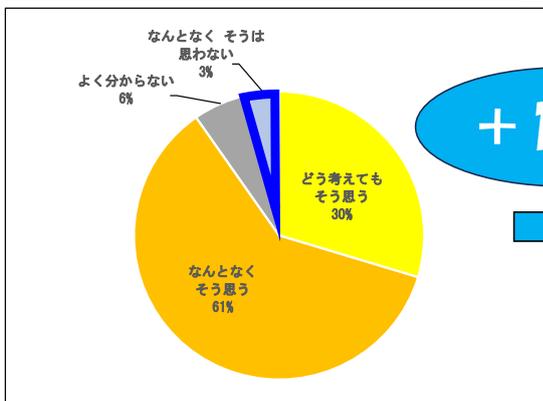
⑩人通りの多い場所では、子どもが誘拐されやすい。



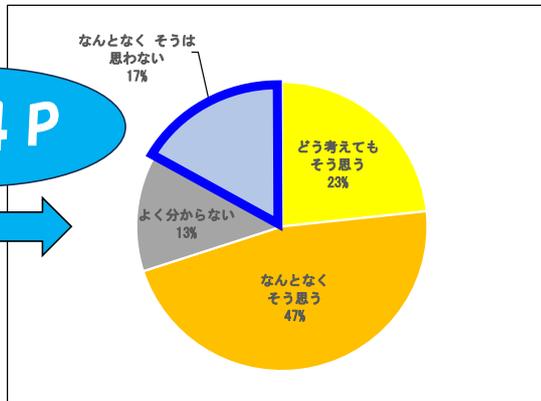
+10P



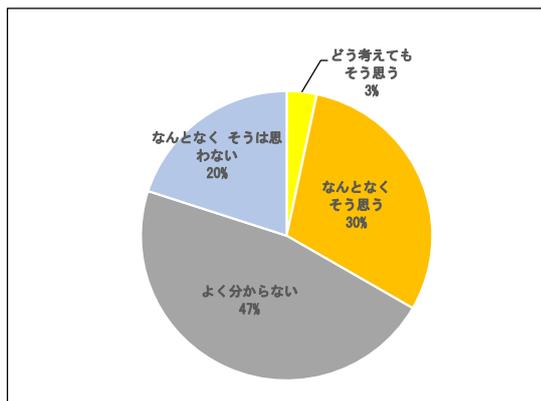
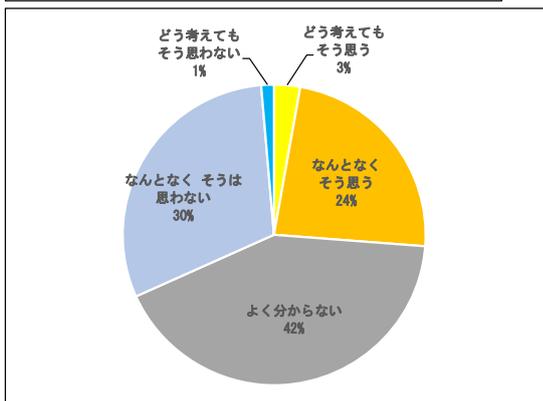
⑪暗い道では、子どもが誘拐されやすい。



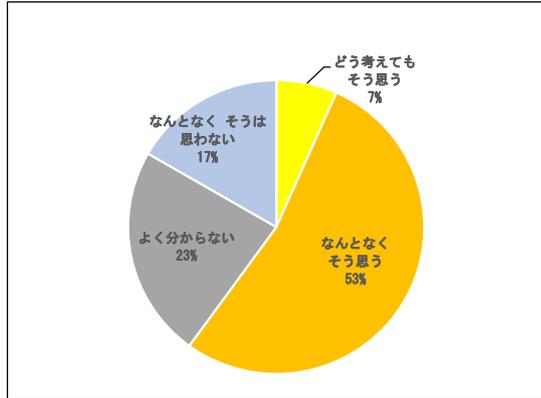
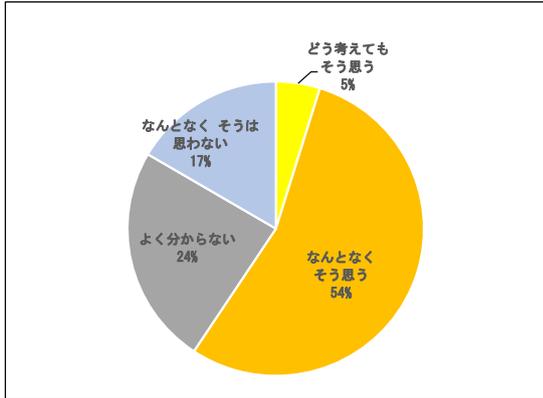
+14P



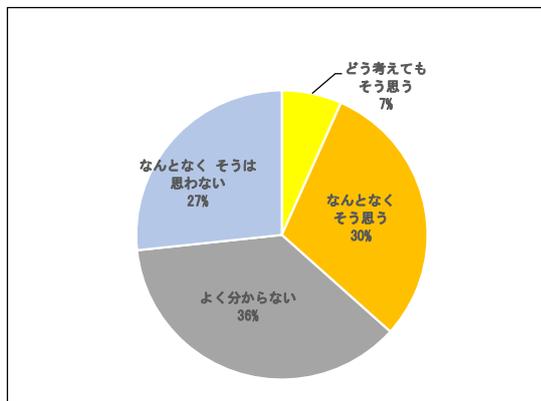
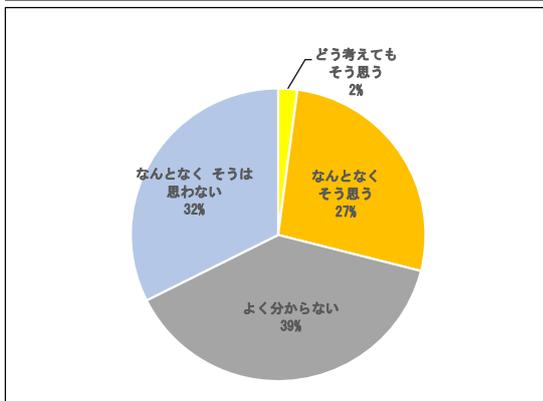
⑫団地では、子どもが誘拐されやすい。



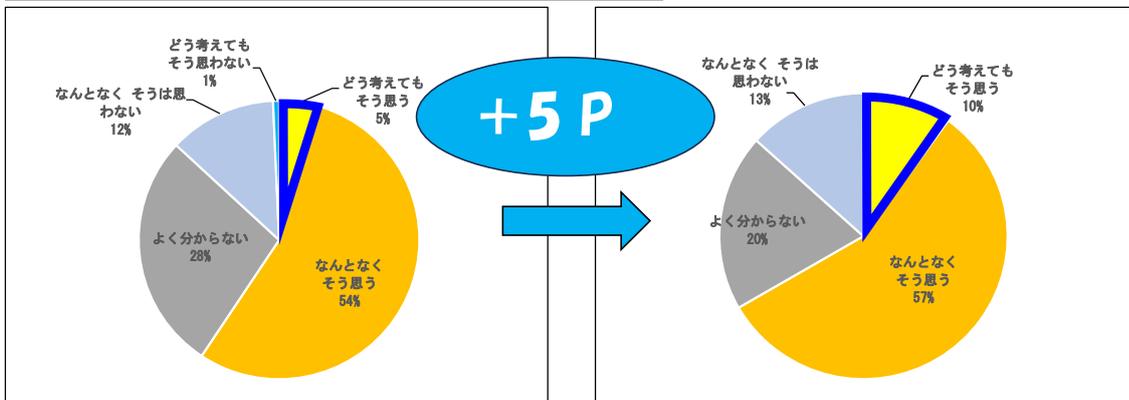
⑬ショッピングセンターでは、子どもが誘拐されやすい。



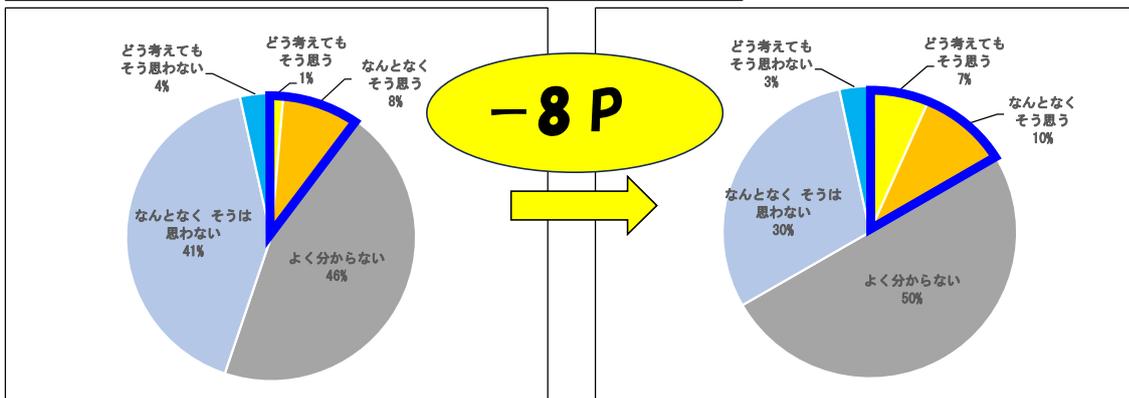
⑭学校の周辺では、子どもが誘拐されやすい。



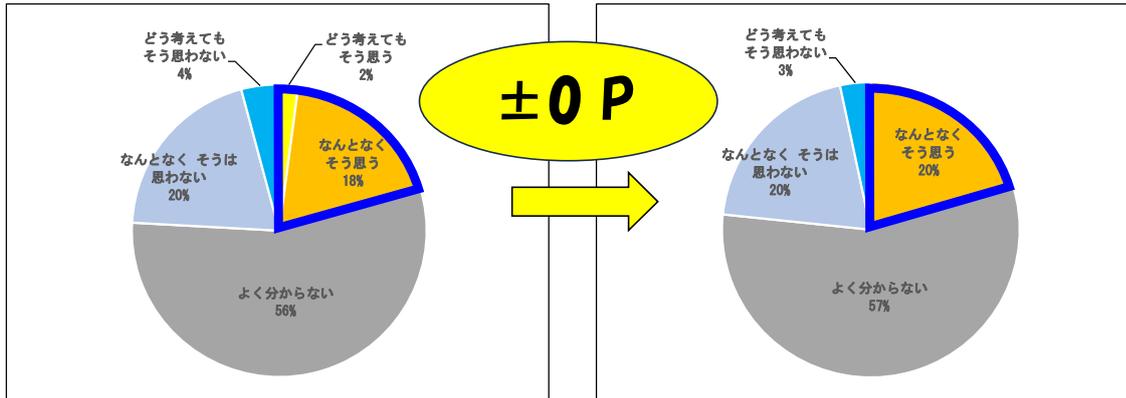
⑮周りが田んぼの道では、子どもが誘拐されやすい。



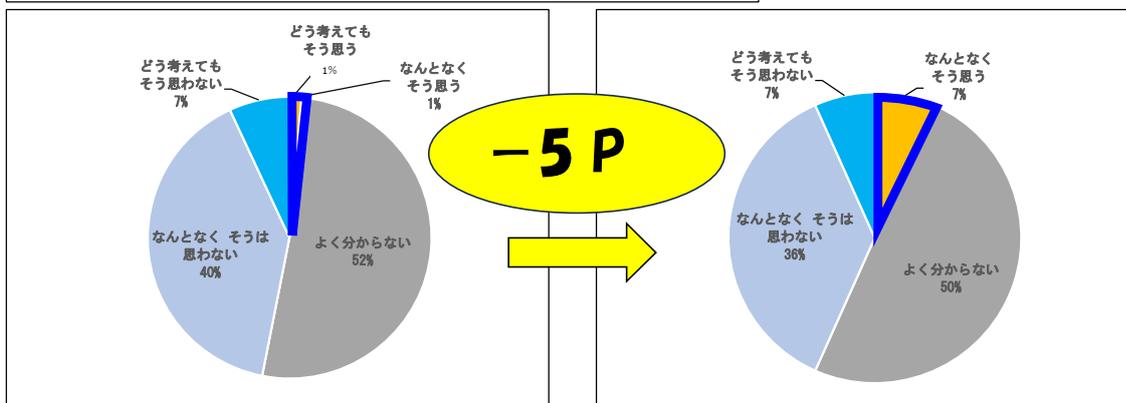
⑯道路にガードレールがあると、子どもが誘拐されやすい。



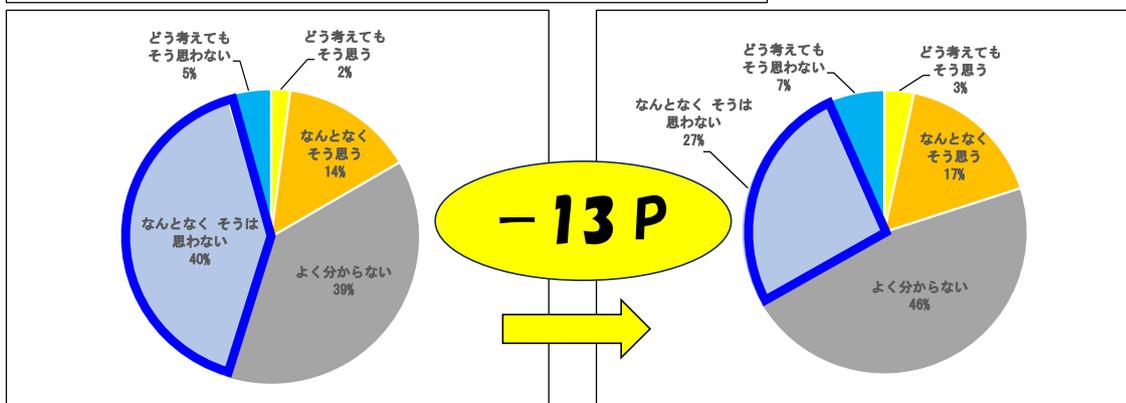
⑰子どもを狙った犯罪者は、落書きが多い道が好きである。



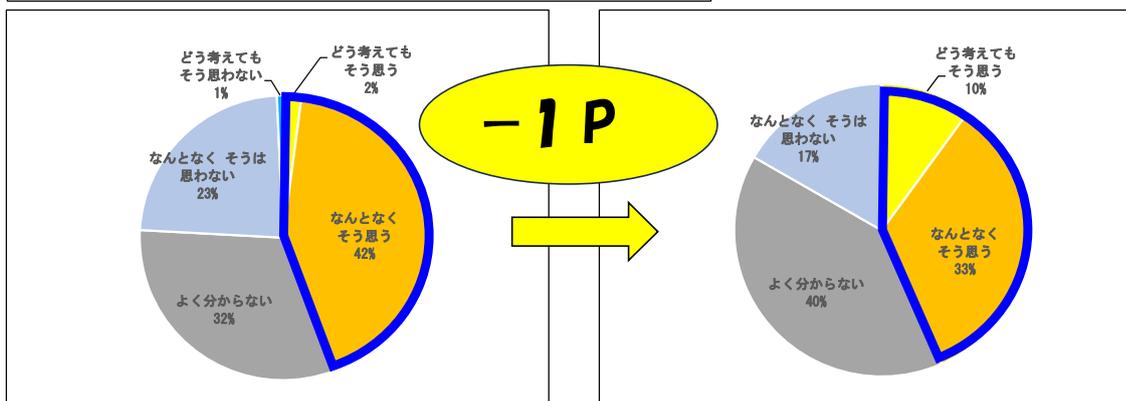
⑱子どもを狙った犯罪者は、花が飾ってある道が好きである。



⑲公園の遊具の前にベンチがあると、子どもが誘拐されやすい。



⑳公園の前に駐車場があると、子どもが誘拐されやすい。



指導者からの講評

講 評

◇立正大学文学部 社会学博士
教授 小宮 信夫 氏

◇上越教育大学大学院学校教育研究科 学校教育学系
准教授 蜂須賀 洋一 氏

第3回実践委員会(R7.2.4) 記録

◇モデル地域3校による、本事業の成果報告会の記録
今年度事業の成果と課題についての協議、及び今後の事業の方向性について
意見を交換しました。是非、貴校の今後の防犯教育の参考にしてください。

◇標記委員会での指導者からのご指導

地域安全マップと子どもの安全

立正大学教授・社会学博士
小宮 信夫

地域安全マップとは、犯罪が起こりやすい場所を、風景写真を使って解説した地図である。具体的に言えば、(だれもが／犯人も)「入りやすい場所」と(だれからも／犯行が)「見えにくい場所」を洗い出したものが地域安全マップだ。犯行の機会の有無によって犯罪を予測する「犯罪機会論」を、だれでも楽しみながら学ぶことができるように、2002年に私が考案した。

例えば、フェンスのない公園は「入りやすい場所」である。周囲に家の窓が見えない公園は物理的に「見えにくい場所」である。人混み(注意が拡散している)やゴミや落書きが放置されている区画(知らんぷりされている)は心理的に「見えにくい場所」である。新潟女児殺害事件(2018年)の誘拐現場も、「ガードレールがないから入りやすく、両側が空きアパートと線路なので見えにくい場所」だった。

こうした景色がはらむ危険性に気づく能力、つまり「景色解読力」を高めることが、マップづくりの目的である。そのため、地域安全マップには写真が欠かせない。写真は景色を再現したものだから。景色解読力が高まれば、どこに行っても、犯罪を予測し、危険を回避できるようになる。したがって、マップづくりとは言うものの、実際には能力の向上という「人づくり」であって、地図の作製という「物づくり」ではない。

この地域安全マップは、2008年に政府の『犯罪に強い社会の実現のための行動計画』で採用されたが、その普及は進んでいない。実際には、地域安全マップと呼ばれているもののほとんどが間違えた作り方をしている。

作り方を間違えたマップの中で最も問題なのが、不審者への注意を呼びかける「不審者マップ」である。不審者という言葉から危険を予測することは不可能に近い。犯罪を企んでいるかどうかは見た目では判断できないからだ。道徳教育では「人は見かけで判断するな」なのに、防犯教育では「人は見かけで判断しろ」になっている。判別困難な「不審者」を無理やり発見しようとして、知的障害者、ホームレス、外国人を不審者扱いすることもしばしばだ。

間違えたマップで多いのが、犯罪が起きた場所を表示した「犯罪発生マップ」である。しかし、犯罪発生マップと地域安全マップは、機能上は全くの別物だ。犯罪発生マップは、二次元の地図を基礎に「鳥の目」から見たものであるが、地域安全マップは、三次元の景色を基礎に「虫の目」から見たものである。子どもも犯罪者も、地図ではなく、景色を見ながら生活している。したがって、安全と危険は、地図の中ではなく、景色の中で区別すべきものなのである。

間違えたマップの中には、何となく不安な場所を書き出した「非科学的マップ」もある。景色がはらむ危険性をキャッチするためには、それを可能にする科学的な判断基準、つまり危険性を測定する「ものさし」が必要だ。それが、犯罪機会論の「入りやすい」「見えにくい」というキーワードであり、これによって初めての的確な判断が可能になるのである。

このように現状では、ニセの地域安全マップがたくさん出回っているが、正しい作り方をした場合には、以下の効果が期待できる。

第一の効果は、マップづくりに取り組んだ子どもの危険予測能力が高まり、その結果、その子が犯罪に巻き込まれる確率が低下することである。大阪教育大学附属池田小では、

マップの授業を、児童への事前と事後の調査によって検証し、危険予測能力の向上という学習効果があったと結論づけている。一連の「学校安全総合支援事業」(文部科学省委託)における最初のモデル地域になった新潟県魚沼市立堀之内中学校区でも、マップの授業の前と後に、児童・生徒を対象にとったアンケート(意識調査ではなく知識調査である点が重要)を見ると、児童・生徒の景色解読力(危険予測能力)が大幅に上昇したことが分かる。

第二の効果は、マップを作製した子どもが非行に走りにくくなることである。マップの授業はグループワークの形式をとる。そのため、子どもたちは、クラスメイトとの相互作用の過程でコミュニケーション能力などの社会的スキルを伸ばすことができる。地図に装飾を施す作業や全員に発言させる発表会も、特定の子どもの排除されることを防ぎ、子ども同士の仲間意識を高める仕掛けだ。

また、マップの授業はシティズンシップ(市民性)教育という性格も帯びている。子どもたちは、街探検を通じて地域社会への関心を高める。住民へのインタビューも、情報収集というのは建前で、本音は子どもと住民との信頼関係の構築にある。要するに、地域安全マップの授業には、子ども同士の絆の強化、さらには住民との絆づくりが期待できるのだ。こうした社会的絆は子どもを非行から遠ざける。

第三の効果は、地域社会における犯罪の発生率を低下させることである。マップづくりによって、犯罪機会論の考え方が広まれば、地域を基盤とした防犯活動が、理論的な指針を得て、無理なく無駄なく展開されるようになる。例えば、欧米諸国で効果が実証されているホットスポット・パトロールは、日本で一般的なランダム・パトロールとは異なり、犯罪機会論に基づいている。その意味で、地域安全マップづくりは、コミュニティ・エンパワーメントの手法なのである。

2024年度は、燕市をフィールドとして、「学校安全総合支援事業」が展開された。拠点校の燕市立粟生津小学校では、「伝える」を重視した授業が見られた。アメリカ生まれの「学びのピラミッド」という学習理論によると、学習内容の記憶への定着率は、読んだだけでは10%にすぎないが、実際に自分でやってみると75%になり、他人に教えれば90%にまで高まるという。とすれば、この「伝える」を重視した授業は、学習内容の記憶への定着度を高めたに違いない。

さらに、「伝える」授業は、地域改善のアクションへとつながったようである。これが、地域安全マップに「地域」という言葉が入っている由縁である。

小宮 信夫 先生 プロフィール

立正大学文学部教授。社会学博士。

ケンブリッジ大学大学院犯罪学研究科修了。

法務省、国連アジア極東犯罪防止研修所などを経て現職。

「地域安全マップ」の考案者。

警察庁の安全・安心まちづくり調査研究会座長、東京都の非行防止・被害防止教育委員会座長などを歴任。

代表的著作は、『写真でわかる世界の防犯 ——遺跡・デザイン・まちづくり』(小学館、全国学校図書館協議会選定図書)。

NHK「クローズアップ現代」、日本テレビ「世界一受けたい授業」などテレビへの出演、新聞の取材、全国各地での講演も多数。

公式ホームページとYouTubeチャンネルは「小宮信夫の犯罪学の部屋」。



新潟県内で行なぐ「地域安全マップづくり」の授業づくり

上越教育大学准教授
蜂須賀 洋一

「地域安全マップづくり」は、本事業の推進委員である小宮信夫教授（立正大学）が、2002（平成14）年に「犯罪機会論」を学べるツールとして考案した実践的な取組である。小宮教授は、犯罪機会論について、犯行パターンの共通点として、「一言で表すと、犯罪者は景色を見て、そこが『入りやすく見えにくい場所』だと判断すれば犯行を始めるが、そこが『入りにくく見えやすい場所』だと判断すれば犯行をあきらめる」と指摘する（Wedge ON LINE 「子どもの誘拐事件を防ぐ「地域安全マップ」の正しい作り方ー「景色解読力」を高めるために」<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/12268> 2018年）。

「地域安全マップづくり」の授業は、この犯罪機会論の「入りやすく見えにくい場所」をキーワードとし、子ども自ら、安全な場所等について適切に判断できる「景色解読力（危険予測能力）」を育成することを目的の一つとしている。この「景色解読力」は、生涯を通じて安全な生活を送る基礎となり得る知識である。

新潟県では、2019（令和元）年度より新潟県における「学校安全総合支援事業」（文部科学省）として、各年度、上越地区、中越地区、下越地区、佐渡地区でモデル地域を指定し、「地域安全マップづくり」の授業について普及を促進してきた。その成果としては、教師や子どもの姿として、具体的に現れている。

例えば、どのような授業を構築すればよいか、これまで取り組んできた先生方が、単元全体の授業デザインを確立したことが挙げられる。それは、子どもたちの問題意識をつなぐ学習過程や、発問などを具体的な形として表した学習指導案に記録が残っている。

また、安全に関する知識の獲得、「景色解読力（危険予測能力）」など、子どもたちの資質・能力の向上が挙げられる。その中で、注目されるのが、地域安全マップづくりの授業を通して、「地域社会に貢献したいという」思いが高まってきた子どもの姿である。正に、小宮教授のいう「地域安全マップづくりには、シティズンシップ（市民性）教育という要素も盛り込まれている」「地域安全マップづくりによって、犯罪機会論の考え方が親や住民の間に広まれば、地域を基盤とした防犯活動が理論的な指針を得て、無理なく無駄なく展開されるようになる」という指摘とつながる（前掲、小宮、2018,）。子どもたちが、地域住民に発信する活動は、時として地元のマスコミにも取り上げられることがあった。

このように、新潟県内で拠点校として指定された学校が、「地域安全マップの授業」を受け継ぎ、そこで創意工夫をこらし、次へとバトンをつないでいった。本年度、受け継いだのが、燕市立吉田中学校区（吉田中学校、粟生津小学校、吉田南小学校）である。

ここでの実践は、「犯罪機会論っていわれても、難しそうだな。」「自分で指導できるのだろうか。」このような思いをもつ学校・教師へ、「どの学校でも、誰でも取り組みますよ」とメッセージを発するような取組が特徴であった。

その一つが、「UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育」（粟生津小学校3年生、吉田南小学校3年生）として、整理したことである。具体的には、UNIT 1「知る」：『入りやすく見えにくい』場所って、なに？、UNIT 2「調べる」：「地いきに『入りやすく見えにくい』場所は、あるかな？」、UNIT 3「気付く」：『人』ではなく『場所』が大切！、UNIT 4「伝える」：「みんなも『場所』に気づいてほしい！」としている。そして、それぞれの段階での学習目標を具現化し、具体的活動展開も明確にしている。「地域安全マップづくりの授業」に初めて取り組む教師にとっては、授業構成についてコンパクトに説明がな

されている情報として貴重な資料となる。

また、ここでは、「入りやすく見えにくい場所」を子どもたちにどう説明したらよいかという疑問に対して、小宮教授の開発した「YouTube 動画」（「小宮信夫の犯罪学の部屋」参照）を活用した例を示している。「入りやすい見えにくい場所」については、5年生の「保健」の教科書に記述される重要な用語でもあるが、インターネット上の動画を補助ツールとして活用することで、教師自身や子どもたちの知識の獲得にもつながると考える。

2つめの特徴として、小学校からつながる中学校での取組を「UNIT 1～3の3ステップで実施できる防犯教育」（吉田中学校）として整理した点である。ここでは、まず、「不審者対策避難訓練」の機会に、犯罪機会論や景色解読力について知る活動を設定している。そして、「入りやすく見えにくい場所」のキーワードに着目し、「保健体育」と関連付けながら、中学生が巻き込まれやすい犯罪被害、インターネット上の防犯について考えさせている。このように、吉田中学校実践は、「犯罪機会論」を具体的に学ぶ「保健体育」と学校行事等とを関連付け、教科横断的学習を展開することによって、子どもたちの問題意識をつなげるだけでなく、教育課程上の精選を図った点に特徴がある。

教育現場では、これまでの教科内容に新たに加えられる「〇〇教育」が増加するなど「カリキュラム・オーバーロード（教育課程の過積載）」が問題となっている。このような吉田中学校区での取組は、授業時数や内容の精選の意味からも、効果的なカリキュラム・マネジメントがなされ、他の学校が取り組む際に、大いに参考なる事例だと思われる。また、吉田中学校区での取組は、小学校から中学校まで、「犯罪機会論」を子どもの発達段階に即し、系統的体系的に指導する試みにつながるものと考えられる。

今後もこのような「地域安全マップづくり」を核とした犯罪機会論を指導する取組が、学校現場で普及し、継続されるためには、様々な実践事例を通して、まず各学校・教師が学んでいくことが期待される。そのためにも、本事業の充実・発展に期待したい。

最後に、このようなすばらしい事業に参画する機会を与えてくださった新潟県教育委員会、また、燕市教育委員会、燕市立吉田中学校区の方々、立正大学の小宮信夫教授に深く感謝申し上げます。

蜂須賀 洋一 先生 プロフィール

研究内容

法に基づいた、平和で穏やかな学校・学級づくりがテーマ。

具体的には、学校事故に関する裁判例に示された判決書を分析し、人権教育や生徒指導、安全教育等に活かす教材開発研究に取り組んでいる。そして、判決書教材を活用した授業プログラムを開発し、実践的な研究に取り組んでいる。また、教師の法に基づいた危機管理意識の向上に関する研修プログラム開発の研究も進めている。

論文・著書

- ・2024（分担執筆）『2025年度版必携教育六法』，協同出版
- ・2023（単 著）「気をつけたい教師の不適切な言動や対応～学校裁判事例から～」
『月刊生徒指導 7月号』 52(8)，pp.19-23
- ・2022（分担執筆）『学校教育を深める・究める』，三恵社，「深める・究める安全教育」
- ・2020（分担執筆）『小学校・中学校における安全教育』，培風館
- ・2020（単 著）「学校事故裁判事例を活用した安全教育の実践的研究2」
『上越教育大学研究紀要』 39-1

お名前	内 容
事務局	<p>①令和6年度事業の成果と課題について</p> <p>次の2点から事業の成果と課題について報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単元をUNITで構成したUNITシートの作成から 2. モデル地域児童・生徒の変容から <p>【成果1】防犯教育の単元をUNITで構成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UNITシートと単元の指導計画で、防犯教育を分かりやすく例示。 ・小学校3年生と中学校2年生の実践を防犯教育の参考として県内に周知できる。 <p>【成果2】犯罪から自分の身を守るための景色の見方を身に付けた児童生徒が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪者に、犯罪の機会を与えないようにしようとする児童生徒が育つ。 ・誰もが入りやすく、誰からも見えにくい場所の見方が分かる児童生徒が育つ。 ・児童生徒の学びの発信が保護者に伝わり、学校と保護者共通理解の防犯教育が展開できる。 <p>【課題】地域で防犯を進めていくための行政や防犯団体との連携</p>
金田教頭 (栗生津小)	<p>②2校の事業の成果と課題について</p> <p>(1)3年生が興味を示した「ま、いっか人間」という言葉</p> <p>地域への関心の無さから生まれる「ま、いっか人間」が増えることで、景色が見えにくくなってしまっていること。ゴミが平気で捨てられていたり、落書きがされていたりする場所は「世間から見過ごされている地域」、つまり「見えにくい景色」になっている。この「ま、いっか人間」という言葉のインパクトに子どもたちは興味を持ち、犯罪者が好む「入りやすく、見えにくい場所」の理解を加速させた。</p> <p>(2)フィールドワークの重要性</p> <p>長時間の外活動による熱中症防止の観点、取り組みやすさという点から、フィールドワークを行わずにGoogle mapでの景色解説に取り組んだが、子どもたちにその場所を実感させる・距離感を分からせるには、1時間でもフィールドワークをした方がよい。</p>

	<p>(3)3年生にどこまで求めるのか（課題） マップが広範囲に渡っていたこともあり、安全マップを作成する（まとめる）段階で、子どもたちは難しさを感じた。マップの場所を絞り、伝える場所をスポット化する方法も考えられる。</p> <p>(4)縦の UNIT から横の UNIT へ広げる 3年生で学習する縦の UNIT で防犯の知識は十分に身に付く。今後はその知識を4～6年生での防犯学習へ横に UNIT を広げていけることが分かったことも成果の1つと言える。</p>
<p>阿部教諭 （吉田南小）</p>	<p>(1)小宮教授の講義・Youtube 動画、拠点校の実践を辿る当校の実践 実践をするに当たり、私自身が Youtube 動画を繰返し見た。子ども用の Youtube 動画は、防犯上の危険な場所を子どもたちに知識として理解させる上で、大変効果的であった。</p> <p>(2)フィールドワークが、知識を生きた知識にする 動画で学んだ知識「入りやすく、見えにくい場所が危険な場所だ」と同じ視点で地域を見て回ることで、自分たちが住む地域にも危険な場所があるんだ、ということ子どもたちは実感。知識を生きた知識にする上でも、実際に外に出てフィールドワークすることが大事。ここで時間を確保できれば、「交通安全上の危険」と「防犯上の危険」の視点の違いについて子どもたちに押さえることができる。もう少し時間が取ればよかった。</p> <p>(3)「入りやすく、見えにくい」場所の紹介だけに終わらない発表会にするために（課題） 防犯クイズや発表用原稿を準備して発表に臨んだが、紹介だけで終わる班があった。これ以上を望むのは難しいか。「入りやすく、見えにくい場所は危険だ」と、広い意味での認識を子どもたちはもっているが、発表する側も聞く側も、防犯上、何が危険なのかをもっと深められるとよかった。</p> <p>(4)系統性のある防犯教育へ 防犯上危険な場所を子どもたちが自分で見つけられるようになっていくことが継続してできるようになっていかなければいけない。長期休み前の町内こども会の議題に、防犯上危険な場所はどこか話し合う場を盛り込む等、3年生の学びを全校の子どもたちに生きた知識として繋げていくことを検討。</p>
<p>金田教頭 （粟生津小）</p>	<p>付け足しで。学習参観で子どもたちを通じて、保護者に、小宮先生から教わった「人がたくさんいるところと、いないところはどっちが危険？」という質問をした。「いないところ」という回答に対して、「でも北極や砂漠で誘拐されたなんて聞かないよ」「人がたくさんいるところの方が危険なんだよ」ということを聞いた保護者たちは、そんなことは知らなかった、と目からう</p>

<p>小宮教授</p>	<p>ろこの反応だった。</p> <p>また、長期休業前に出している当校の「やすみのきまり」にある「不審者に声を掛けられたら」を「入りやすく、見えにくい場所で不審者に声を掛けられたら」に直しました。そして小宮先生のネットのページに繋がるようにQRコードを付けて、「入りやすく、見えにくいについては、ここをご覧ください」とした。こういう保護者への啓発を行った。</p> <p>手軽で、今どきの告知の仕方ですごくいいですね。</p>
<p>阿部教諭 (吉田南小)</p>	<p>保護者に対してという点で付け足し。「不審者は見ただけで分かる」の調査でポイントがアップしていた。「人に伝える場合は最初の掴みが大切」という指導が小宮先生からあり、学習参観で保護者に対して子どもたちが、「この中で不審者は誰でしょう」という、犯罪者は見た目では判断できないことを伝えるためのクイズを出題した。子どもたちの発表前の掴みが調査に反映された、保護者によく伝わったかなと思う。</p>
<p>金田教頭 (粟生津小)</p>	<p>③次年度事業に向けての改善点について <u>※事務局から授業者へ、課題点にかかわる以下の4点を質問。以下、授業者からの回答。</u></p> <p>○行政との連携について 前回、燕市から提案があった、3年生の子どもたちが市に要望する形での防犯カメラ設置に関しては、子どもの発達段階から今年度は断念。現時点で防犯カメラ設置に繋げても、子どもたちの意欲には繋がらないので、子どもたちの発達段階に合った、地域社会とのつながりを学ぶ4年生、もしかしたら中1くらいなのかもしれないが、要望に繋げる。</p>
<p>金田教頭 (粟生津小)</p>	<p>○3年生で防犯教育を学ぶ上で系統性を持った指導計画について 防災教育から防犯教育に繋げた指導計画を、UNITシートと一緒に提供する。</p>
<p>阿部教諭 (吉田南小)</p>	<p>○発表会後の防犯団体との連携面での変化について 具体的な変化はないが、町づくり協議会の方で、自身が担当している地域の子どもたちの発表を聞きたいと言っている方がいた。担当する子どもたちが学んだこと、伝えようとしていることに関心を持ち、今後に繋げようと思われているのを感じた。</p>
<p>金田教頭 (粟生津小)</p>	<p>○地域・保護者との協力・連携について <u>※事務局が、防犯講演会後の保護者・地域の方からの感想を資料提示。</u></p> <p>小宮教授の講演会等の場に、もっと来たかった保護者・地域の方がいたと思う。そこにどう繋げていくか。防犯調査の結果で、保護者の景色の見方に</p>

<p>阿部教諭</p>	<p>ついでに理解がマイナスポイントだったのは、頭では理解はしているが、やはり人で判断してしまうことの表れか。長野駅の事件も、不特定多数の人がいて見えにくくなっている危険な場所だということを知っていればもっと警戒できていた。こういったことを学校・学習した子どもたちが保護者に啓発していかなくてはならない。これが地域に広がり、地域からこの話が学校に帰ってくる。この繰り返しが必要。</p> <p>地域・保護者の方は、初めて知ることに関心を持ってくれる。地道な働きかけが必要。防犯調査の「安全と危険の区別は景色を見れば分かる」がマイナス 14 ポイント。まさにこの内容を学習参観でやっていた。子どもたちが伝えたことが、逆に保護者にとっては、他に何か秘密があるのかな、と感じさせてしまったか。発表の内容がしっかり伝わり切れていないことの表れだと感じる。これからも伝えていく必要がある。</p>
<p>小宮教授</p>	<p>④ご指導…立正大学文学部 教授 小宮 信夫 様</p> <p>単元を UNIT で構成するという切り口が、今年度の事業の取組を大変分かりやすくしている。また、保護者の防犯調査でいい結果が出ているというのは、新潟県のプロジェクトでは初めてのことで、3校の学校からの働きかけが見て取れる。かなり評価されること。</p> <p>マイナス 14 ポイントの結果に関しては、金田教頭先生、阿部先生と同意見。事前の保護者の意識として、「それくらい分かるわよ」と自信を持っていた意識の保護者が、子どもたちの発表を聞くことによって「あれ、自分の考え方は違っていたかな」という素直な回答だと思う。逆に評価できる項目と言える。</p> <p>「安全な場所」であれば知らない人と積極的に話すべきで、「そう思わない」がプラス 29 ポイントで評価されていたが、僕の立場で言うとこれは逆。どんどん話すべき。危険な場所は全員警戒しましょう、近寄ってくる人は全員警戒しましょう、なんです。安全な場所では子どもは大人とどんどん交流を持ちましょうということが理想。ここは残念な結果だった。あまりに「危険」という意識が強すぎると、何でもかんでも危険になってしまう。このバランスを取るのには難しいことだが、ここは課題。</p> <p>今年は、かなりレベルの高い事業をやっている。レベルが高いだけに、こんな悩みが出てきてしまう。レベルが高いがために出てくる課題。ベンチの向きにしても、駐車場にしても、情報が無ければ危険かどうかは判断できない。そんな単純には分からないということ。これは、やっているレベルが高いから出てきてしまう新しい課題。それはそれで素晴らしいこと。</p> <p>長野駅の事件を受けて、金田教頭先生が子どもたちに、「あの場所はどういう場所だったのか」聞いたこと。素晴らしいと思う。こんなことを子ども</p>

たちに問いかける学校はまず無い。おそらく、「気を付けましょうね」程度。どこの学校も見習ってほしいこと。こういうことを機会あるごとにやってみれば、積み重ねていけば、「入りやすく、見えにくい」というキーワードが身に付いていく。

最後に1点。「安全な場所では積極的に話しましょう」について。これは、「コミュニケーションが得意な子の方が被害に遭いにくい」と言われる。つまり堂々としている子どもの方が、性犯罪や誘拐にも遭わない。「NO」と言えない子の方が狙われる。実際、「NO」と言えない子の方がついて行ってしまふ。大人だろうが、どんどん臆せず自分の意見を言える子の方がいい。そのためにはコミュニケーション能力。知らない大人とも積極的に関わらましよう、ということになる。

そう考えると、お二人の先生がおっしゃっていたようにフィールドワークはGoogle mapではなく歩いたほうがいい。アメリカに就学前の子供を対象にした面白い研究がある。1つのグループは実際に1回歩いて学校まで行く。もう1つのグループは3回くらい集まってもらって経路の写真を見せる。どっちが早く道のりを覚えたか。1回だけ歩いたほうが覚えが早かった。やはり、風だとかにおいだとかの身体感覚を全部使った方が、総合的に判断して「この道だ」と分かる。そう考えると、実際に外に出てフィールドワークをした方がいい。デジタルとアナログの違い。アナログでやって初めて感動できるものがある。この意味でも、今回UNITでやったことはアナログ的。アナログだからこそ子供たちの成長・感動がある。コミュニケーションもアナログ。こういったものが学校現場に求められていると思う。時間はかかるかもしれないが、アナログ的に余裕を持ってやった方が感動もするし記憶にも残る。そのいい例が、今年の防犯教育のような気がする。

蜂須賀准教授

④ご指導… 上越教育大学准教授：蜂須賀 洋一 様

系統的・体系的な犯罪機会論の学び。3校が作成したUNITシートを見て、まさしくこれを感じた。今回で、かなり体系化できたと思う。持続可能、普及・広がりという点では、UNITというワードが出てきたが、かなり前進というか、素晴らしいものだったのではないかと感じる。

犯罪機会論を基にした地域安全マップづくりというのはいわゆるクライシスマネジメントではなくリスクマネジメント。日頃から犯罪に合わないためにはどうしたらいいのかという問題意識で進められている。そのためには景色解読力・危険回避能力を育成していきましょうということで、これは生涯役立つ資質ですよ、と言われている。これを学校現場に取り入れる時に、「犯罪機会論って難しそうだなあ、自分で指導できるのかな」という壁がまず出てくる。さらに「うちの学校の子どもたちができるの？これ以上教育課程に余裕ないよ。そんなの高学年でしょ。中学校でしょ。」と言われる。で

も、今回、みんなに分かりやすく広まるようにできた。しかも3年生でもできるんですよ、という今回のアピールはすごいなと思う。

吉田南小は、「Youtube 使えば簡単にできますよ」「余裕が無い？8時間でできますよ。これだったらできるんじゃないですか」「中学生がやること？いやいや、3年生でもねらいを達成できますよ」ということをきちんと証明していただいたことが大きい。「あ、これだったら先生も一緒に学べるしいいかな」と、全体的にも前に勧める。どの学校でも取り組みますよ、というまさしくこのアピール。この UNIT をアピールできたのではないかな。発案した金田先生に感謝申し上げます。

3年生で位置付けることができた。今後、高学年、中学校ではどうするかという疑問が出てくる。つまり、犯罪機会論を子どもの発達段階に即して系統的・体系的に指導する、という目に移ってくる。これが、今度は教科と特別活動をつなぐカリキュラムマネジメントになるんだと思う。定期的な意識化。これは特別活動・学校行事・学活、朝の会・帰りの会等、何か情報が入ったとき。ここで、危険な場所で声を掛けられたときの断り方等の態度や行動を育てられる。さらに、話題に出てきた長期休業前の安全指導。「入りやすく見えにくい場所には、一人で行かないようにしましょう」と当然入ってくる。早速粟生津小学校で実践してもらっている。その他、遠足・修学旅行の事前指導にも使える。常に定期的な意識化ができ、それが態度や行動に繋がっていくというのは今後意識すべきところだと思う。

そして教科学習。保健体育・家庭科・社会科に繋がる。家庭科の教科書(開隆堂)の「とも生きる地域の生活」。「地域の人たちとのかかわりを見つめよう」という単元がある。ここで、3年生で地域安全マップを作ったことを振り返られる。先程の防犯カメラの話題は、この6年生の家庭科でもできると考える。私は6年生の担任を何度もしたが、ここで、地域とのかかわりの素材を見つけるのを大変苦労した。こういった防犯もいい素材になると思う。もちろん、小学校の保健でも扱える単元は出てきます。では中学校ではどうするのか、という問題が出てくる。これを吉田中学校から、UNIT 1～3でできる防犯教育を提案いただいた。まず避難訓練。ここで、小宮先生の Youtube が登場。小学校でも見たよね、と繋がる。そして振り返り。テキストマイニングを使って中学生らしく検証活動をして、最後は保健体育へと教科横断的に繋げて地域へと入っていく。ここで、インターネット上の防犯教育である「入りやすく、見えにくい」を学ぶ。

つまり、最初に3年生の総合で始まった防犯教育で生涯役立つ資質について学ぶが、なかなかこれで定着しないから、学校行事や学活を通して定期的な意識化を図り、高学年の保健・家庭科でもう1回地域に行ってみようか、そして中学校ではさらに広がるインターネットやってみようか、もしくはもう1回総合でやってみようか、と系統的・体系的な犯罪機会論の学びが

<p>小宮教授</p>	<p>できるという面で、吉田中学校区の実践は、今回確立したなと思う。全県下・日本国中に広めていける内容だと思う。</p> <p>来年度、この事業に取り組む学校が決まっていると思う。是非また続けていただいて、いろんな学校に系統的・体系的な犯罪機会論の学びを浸透できたらと思っている。</p> <p>宣伝です。Youtube チャンネルの Podcast で蜂須賀先生からゲスト出演していただいた。4月ごろ公開。是非、見ていただければ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(↓こちらが小宮教授から紹介いただいた対談が視聴できる URL です。)</p> <p>https://www.youtube.com/channel/UC9YWvUKv7mbYuvDxQy9kukQ?view_as=public</p> <p>「小宮信夫の犯罪学の部屋」→小宮先生の防犯トーク（ポッドキャスト）から</p> <p>※4月頃の公開です。蜂須賀先生の知られざる一面が！お楽しみに。</p> </div>
<p>川口指導主事</p>	<p>⑤閉会の挨拶…燕市教育委員会指導主事：川口 淳</p> <p>この事業を通して、今まで当たり前に見えていたものについて、悩むことが増えた。考えることが増えた。これは、子どもたちもそうだが、大人自身も変わってきた。何より、私自身が変わってきた。今回この機会を得て、本当に有難かったなと感じる。</p> <p>粟生津小の金田教頭先生、吉田南小の阿部先生、吉田中の池上先生から実践していただいたからこそこの今がある。何よりそのスタートを作っていた小宮先生、蜂須賀先生からの言葉に毎回刺激を受け、学ばせていただいた。この1年間本当にありがとうございました。</p> <p>私は今、授業をしたいな、と思っている。せっかく得たものを現場に返したいなと思う。皆様から頂いた機会を途絶えさせることなく、私自身の中でも考え続けて、またこれからの場で広めていきたいと思う。</p>